

## 2016 年度（平成 28 年度）事業報告

（2016（平成 28）年 4 月 1 日から 2017（平成 29）年 3 月 31 日まで）

### 1 公益目的事業の状況

「公 1 より良い社会の形成を推進するため、資金等の資源を募り管理活用し、また社会的活動を行う団体に対して助成、顕彰等を行うほか、社会貢献活動についての調査、研究、情報発信、相談・助言等を行う事業」にかかわる個別事業の本年度事業結果を以下に報告する。

#### （1）資金等の資源を募り、管理・活用する事業

広く個人や企業等からの寄附を社会的活動につなげていくもので、当財団の中心的な事業である。受け入れた寄附金を助成金として活用する側面を含めて、本項に記載する。

2016 年度に当財団が受け入れた寄附金は合計 58,962,984 円であった。当財団の呼びかけに賛同しご支援くださった、個人・企業の寄附者の皆様に深く感謝する。

#### 1) オンライン寄附サイト「Give One（ギブワン）」登録団体への寄附の募集

オンライン寄附サイト「Give One（ギブワン）」を運営し、不特定多数の市民、特に初めて寄附を行う人や仕事が忙しく社会貢献活動の機会のない人などを対象に、当財団による厳正な事前審査を経た、信頼できる団体の活動情報を提供し、寄附を募った。助成先団体情報の更新、団体活動レポートの送信などを通じ、寄附者が助成先事業を共に支えていることが実感できる仕組みを提供している。

2016 年度は、新規登録団体の公募・審査を行い、新たに 10 団体を採用した。2016 年度末の登録団体の状況は、前年度より 9 団体増加し 164 団体となったが、登録プロジェクト数は 42 減少して 256 プロジェクトだった。

2016 年度のオンライン寄附金額（クレジットカードとジャパンネット銀行を通じた決済金額）は合計 23,074,233 円で、前年度比 11%減となった。

寄付申込の翌々月末に助成金の振込を行うことから、2016 年 2 月～2017 年 1 月の間に寄付の申込のあった寄附金の 85%にあたる 19,688,344 円を、登録団体のうち 140 団体に対する助成金にあて、15%を同サイトの運営費用とした。助成の団体別内訳実績は下記の通りである。

助成先団体名	受入寄附金額	助成金額
パブリックリソース財団「Give One 寄付パッケージ」窓口(総額)	¥4,891,932	¥4,191,347
(内訳) ・【熊本地震】緊急被災者支援パッケージ	¥3,203,955	¥3,158,455
・【震災特別寄付パッケージ】被災地 3 県の 8 団体応援プロジェクト	¥765,000	¥733,000
・【東日本大震災】生活再建支援寄付パッケージ	¥427,500	¥463,500
・災害弱者(障害者・アレルギー患者・外国人)寄付パッケージ	¥185,000	¥165,000
・【シリア内戦】緊急人道支援寄付パッケージ	¥77,231	¥154,846
・【ネパール大地震】緊急支援パッケージ	¥64,500	¥63,500
・【ハイチ】ハリケーンマシュー緊急被災者支援パッケージ	¥55,746	¥55,746
・ハイチ大地震による被災者緊急支援	¥42,000	¥54,000
・【東日本大震災】復興ふくしま支援寄付パッケージ	¥36,000	¥34,000
・アフガニスタンの人々に健康と教育を【パッケージ】	¥35,000	¥48,949
アムダ (AMDA)	¥1,039,637	¥852,241
フードバンク山梨	¥1,014,115	¥976,365
全国女性シェルターネット	¥964,450	¥812,813
フードバンク関西	¥729,250	¥600,143
ジャパン・プラットフォーム	¥605,000	¥508,300
日本国際民間協力会 (NICCO)	¥565,200	¥502,945
女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ	¥472,689	¥372,319
子どもセンター「パオ」	¥441,500	¥411,400
ジェン (JEN)	¥438,760	¥424,371
フローレンス	¥420,000	¥299,243
白神山地を守る会	¥403,324	¥360,769
ケア・インターナショナル ジャパン	¥389,500	¥338,725
シャプラニール	¥371,000	¥287,300
長野サマライズ・センター	¥368,500	¥319,175
日本 IDDM ネットワーク	¥350,150	¥342,741
ブリッジフォースマイル	¥340,000	¥285,600
日本地雷処理を支援する会 (JMAS)	¥305,400	¥267,240
子どもシェルターモモ	¥296,000	¥365,500
国際環境 NGO FoE Japan	¥286,000	¥237,150
SOS子どもの村JAPAN	¥285,000	¥250,750
キッズドア	¥267,135	¥205,815
ピース ウィンズ・ジャパン	¥258,940	¥196,299
越谷らるご	¥255,678	¥220,343
新宿連絡会	¥246,000	¥205,700
ビッグイシュー基金	¥245,000	¥227,630

CAP センター・JAPAN	¥241,100	¥219,385
パレスチナ子どものキャンペーン	¥241,000	¥193,800
働く女性の全国センター(ACW2)	¥241,000	¥186,150
さなぎ達	¥240,000	¥198,900
難民を助ける会	¥237,459	¥203,540
ブリッジ エーシア ジャパン	¥235,000	¥212,500
トゥギャザー	¥218,000	¥185,300
石西礁湖サンゴ礁基金	¥206,000	¥158,100
チャイルド・リソース・センター	¥198,000	¥158,100
パブリックリソース財団	¥186,000	¥148,750
自立支援センターふるさとの会	¥180,500	¥153,425
緑の地球ネットワーク	¥161,000	¥138,550
ぱれっと	¥158,000	¥127,500
マギーズ東京	¥155,000	¥119,000
日本クリニクラウン協会	¥142,000	¥117,300
地球の友と歩む会(LIFE)	¥137,350	¥120,743
グッドネーバース・ジャパン	¥123,000	¥109,650
エイブル・アート・ジャパン	¥114,000	¥76,500
エバーラスティング・ネイチャー	¥111,000	¥99,450
ハンガー・フリー・ワールド	¥107,000	¥90,950
ふよう土2100	¥105,000	¥87,550
ビーンズふくしま	¥98,720	¥91,562
こころ塾	¥91,500	¥108,158
レイブクライシスセンターTSUBOMI	¥91,000	¥33,150
遠野まごころネット	¥86,000	¥84,550
CODE海外災害援助市民センター	¥83,745	¥79,467
芸術家と子どもたち	¥82,000	¥60,350
女性の安全と健康のための支援教育センター	¥80,000	¥51,850
民際センター	¥79,500	¥70,975
チャンス・フォー・チルドレン	¥77,000	¥74,800
環境文化NGO・ナマケモノ倶楽部	¥74,000	¥65,450
しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西	¥73,000	¥54,400
高木仁三郎市民科学基金	¥73,000	¥44,200
アトピZZ地球の子ネットワーク	¥70,000	¥59,500
子どもの虐待防止ネットワーク・あいち(CAPNA)	¥69,000	¥45,900
DPI 日本会議	¥65,000	¥57,800
国際ビフレンダーズ 東京自殺防止センター	¥64,000	¥57,800
日本点字図書館	¥63,500	¥62,050

ジャパンハート	¥63,088	¥32,375
こどもコミュニティケア	¥60,000	¥51,850
きょうとグリーンファンド	¥59,000	¥58,650
アイキャン	¥57,000	¥48,450
アジア・アフリカと共に歩む会	¥57,000	¥47,600
気候ネットワーク	¥57,000	¥53,550
アジア協会アジア友の会	¥54,000	¥0
シャンティ国際ボランティア会	¥53,500	¥59,075
東京シューレ	¥52,000	¥46,750
多言語社会リソースかながわ	¥50,000	¥17,000
彩結び	¥49,200	¥21,420
グリーフケア&ピアサポート 福島れんげの会	¥48,000	¥34,850
JUON(樹恩) NETWORK	¥47,000	¥39,100
バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター	¥47,000	¥39,950
日本クマネットワーク(JBN)	¥47,000	¥39,950
「みのお山麓保全ファンド」	¥46,000	¥28,900
あおもり NPO サポートセンター	¥45,500	¥38,675
子どもの虐待防止センター	¥41,000	¥31,450
21 世紀協会	¥39,000	¥33,150
響愛学園	¥37,000	¥33,150
東京 YMCA“liby(リビー)”	¥37,000	¥36,550
知床自然大学院大学設立財団	¥35,000	¥21,250
箕面こどもの森学園	¥32,461	¥27,536
インフォメーションギャップバスター	¥30,000	¥17,000
カパティラン	¥30,000	¥25,500
ゆるら	¥30,000	¥25,500
e-MADO 病気のこどもの総合ケアネット	¥29,000	¥26,350
サポートハウスじよむ	¥29,000	¥25,500
タンザニア・ポレポレクラブ	¥28,000	¥22,950
アレルギー支援ネットワーク	¥27,000	¥22,950
児童虐待防止協会	¥27,000	¥23,800
リソースセンターone	¥25,000	¥21,250
ACE	¥24,000	¥20,400
いわき放射能市民測定室「たらちね」	¥24,000	¥21,250
のんびりすみちゃんの家	¥24,000	¥20,400
まちぽっと	¥24,000	¥19,550
JHP・学校をつくる会	¥23,000	¥23,800
病気の子ども支援ネット 遊びのボランティア	¥23,000	¥20,400

日本グッド・トイ委員会	¥20,000	¥18,700
WE21ジャパン	¥17,000	¥10,200
ロボカップ日本委員会	¥17,000	¥14,450
楠の木学園	¥16,200	¥13,770
チャイルド・ファンド・ジャパン	¥15,000	¥12,750
ムラのミライ	¥13,000	¥11,050
樹木・環境ネットワーク協会	¥13,000	¥11,050
神戸定住外国人支援センター(KFC)	¥13,000	¥11,050
サイエンス・アクセシビリティ・ネット	¥12,450	¥17,638
Hands On Tokyo	¥12,000	¥10,200
尾道空き家再生プロジェクト	¥12,000	¥10,200
霧多布湿原ナショナルトラスト	¥12,000	¥10,200
e-Education	¥11,000	¥9,350
エッジ	¥11,000	¥9,350
おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ	¥10,000	¥8,500
リヴォルヴ学校教育研究所	¥10,000	¥8,500
ワールドキッズコミュニティ	¥10,000	¥8,500
インド福祉村協会	¥8,000	¥6,800
キープ協会	¥6,000	¥5,100
子どもセンターぼると	¥5,500	¥0
日本国際ボランティアセンター(JVC)	¥5,000	¥4,250
共存の森ネットワーク	¥1,800	¥1,530
(公益財団法人公害地域再生センター)	¥1,000	¥850
日本ウミガメ協議会	¥1,000	¥9,350
野生生物保全論研究会	¥1,000	¥850
緑と水の連絡会議	¥1,000	¥850
HIVと人権・情報センター	¥0	¥4,250
アイサーチ・ジャパン	¥0	¥2,550
メコン・ウォッチ	¥0	¥850
国際医療技術財団	¥0	¥8,500
<b>合 計</b>	<b>¥23,074,233</b>	<b>¥19,688,344</b>

クレジットカードとジャパンネット銀行以外の決済手段による、Give One 登録団体に対する寄附は、17 件、合計 4,410,000 円だった。

寄付者名	寄付金額
azbil みつばち倶楽部様	¥1,700,000
株式会社クオカード様 (12 件)	¥571,040

アイリックコーポレーション 様	¥55,500
個人3名	¥2,083,460
合計	¥4,410,000

2016 年度に受け取ったご寄付のうち、170 万円は助成を 2017 年度に繰り越すこととし、2016 年度は以下の助成先に合計 2,016,353 円を助成した。

助成先団体名	助成額
アムダ (AMDA)	¥419,645
日本クリニックラウン協会	¥116,331
e-MADO 病気のこどもの総合ケアネット	¥87,890
CAP センター・JAPAN	¥85,000
エッジ	¥85,000
キッズドア	¥85,000
チャイルド・リソース・センター	¥85,000
トゥギャザー	¥85,000
バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター	¥85,000
フードバンク山梨	¥85,000
ふよう土 2100	¥85,000
ゆるら	¥85,000
越谷らるご	¥85,000
遠野まごころネット	¥85,000
子どもシェルターモモ	¥85,000
児童虐待防止協会	¥85,000
女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ	¥85,000
長野サマライズ・センター	¥85,000
ジェン (JEN)	¥22,372
ピース ウィンズ・ジャパン	¥20,247
石西礁湖サンゴ礁基金	¥16,524
エバーラスティング・ネイチャー	¥13,702
フローレンス	¥7,905
働く女性の全国センター (ACW2)	¥6,970
芸術家と子どもたち	¥5,542
白神山地を守る会	¥3,995
アレルギー支援ネットワーク	¥3,655
こころ塾	¥3,655
きょうとグリーンファンド	¥3,570
ジャパン・プラットフォーム	¥2,550
国際環境 NGO FoE Japan	¥2,550

霧多布湿原ナショナルトラスト	¥2,550
緑と水の連絡会議	¥1,700
合計	¥2,016,353

## 2) 財団運営への寄附

当財団の賛助会費（運営費 100%）は、個人 47 件、540,000 円、法人 2 件、200,000 円の合計 740,000 円だった。

## 3) 社員参加型／顧客参加型寄附推進システムの提供・運営

### <寄付付き年賀状>

寄附金付き年賀状の企画は株式会社プリプレス・センターと協働して、2014 年版年賀状（当財団 2013 年度）から実施している。年賀状に支援先を明記するために、年賀状の販売開始に先立ち、昨年度、助成先に関する選考委員会を開催し本年賀状のデザインで採用される障がい者アートの活動（一般財団法人たんぽぽの家 エイブルアート・カンパニー）を助成先として決定した。2016 年度は、2016 年版年賀状販売による寄附金（33,555 円）をもとに、28,522 円の助成を実施した。

受入寄附金額	33,555 円
助成額	28,522 円
公募	公募実施せず（昨年度より継続助成）
審査会	2014 年 7 月 11 日～17 日（書面による持回り開催）
選考委員	秋葉武（立命館大学産業社会学部 教授） 伊藤隆（世界文化フォーラムアライアンス 日本幹事） 槇ひさ恵（特定非営利活動法人ニンジン 常務理事）
審査結果	一般財団法人たんぽぽの家 エイブルアート・カンパニー
助成期間	2016 年 4 月～2017 年 3 月

### <魚沼の未来基金>

本基金は、塩沢信用組合と協働して、魚沼地域の未来を切り拓く人材や団体を支援し、地域の誰もがいきいきと暮らせるふるさと魚沼を、将来にわたって継承・発展させることを目的として設立した。

本基金は、信用組合が組合員に呼びかけて寄付を募り共に地域に貢献するといった、金融機関が「社会貢献のプラットフォーム」を提供する日本初の取り組みとなる。2016 年度は 161 件、5,201,757 円の寄付を受け入れ、2017 年度より実施する返済不要の高校生向け奨学金制度「第一期はばたき奨学金」実施のため、魚沼地域のひとり親家庭の子女を対象に、22 名の奨学生の選定を行った。奨学金は一人当たり 96,000 円うち入学準備金 36,000

円月齡奨学金 60,000 円 (5,000 円×12 か月) である。2016 年度は入学準備金 36,000 円のみ助成を行った。

受入寄附金額	5,201,757 円
総決定金額	2,112,000 円 (96,000 円×22 名)
助成額	792,000 円 (入学準備金のみ)
公募	2016 年 11 月 1 日～12 月 30 日
応募	33 件
審査会	2016 年 1 月 31 日
選考委員	寺尾仁 (新潟大学工学部建設学科 准教授) 林茂男 (南魚沼市長) 佐藤雅一 (魚沼市長) 小野澤一成 (塩沢信用組合 理事長)
審査結果	22 人を奨学生として選定
助成期間	2017 年 3 月 1 日～2018 年 3 月 31 日

< ささえあい QUO カード (寄付つきプリペイドカード) >

ささえあい QUO カード (寄付つきプリペイドカード) の企画は株式会社クオカードと協働して、2015 年から販売を実施している。寄付先団体は、昨年度から引き続き「特定非営利活動法人石西礁湖サンゴ礁基金」「認定特定非営利活動法人エバーラスティング・ネイチャー」「特定非営利活動法人日本クリニックラウン協会」「特定非営利活動法人芸術家と子どもたち」「AED・健康スポーツ基金」「アート&ヘルス基金」「認定特定非営利活動法人 AMDA (アムダ)」である。寄付金に関しては他プロジェクトとともに助成を行った。

受入寄附金額と枚数	特定非営利活動法人石西礁湖サンゴ礁基金：15,760 円、394 枚 認定特定非営利活動法人エバーラスティング・ネイチャー：16,280 円、407 枚 特定非営利活動法人日本クリニックラウン協会：22,520 円、563 枚 特定非営利活動法人芸術家と子どもたち：6,640 円、166 枚 AED・健康スポーツ基金：23,240 円、582 枚 アート&ヘルス基金：9,240 円、231 枚 認定特定非営利活動法人 AMDA (アムダ)：509,840 円、12,746 枚 総額：603,520 円、総販売枚数：15,089 枚
-----------	---

#### 4) 寄附基金の運営による継続的な寄附の推進

今期は下記の基金を運営した。

< 東日本大震災広域避難者支援基金 >

「東日本大震災広域避難者支援基金」は、福島からの広域避難者の生活の質の向上を目



指すものである。認定特定非営利活動法人ジャパン・カインドネス協会の管理する寄附金つき飲料自動販売機の売り上げの一部として 491,715 円の寄附を受け入れ、総額の 85%にあたる 417,962 円を助成金として支出した。自動販売機に支援先が明記されているため、昨年度選考委員会で決定された支援先に対し、継続して助成することを原則としている。継続的支援先については、昨年度活動報告と本年度事業計画を選考委員会に提出し、継続の可否について審査をおこなった。なお、2017 年度は「東日本大震災復興支援基金」と統合し、「東北 3.11 基金」として新設され、本年度中に 289,392 円の寄附金を受け入れている。

受入寄附金額	491,715 円
助成額	417,962 円 (3 団体合計)
公募	公募実施せず (昨年度より継続助成)
審査会	2015 年 4 月 7 日
選考委員	秋葉武 (立命館大学産業社会学部 教授) 伊藤隆 (世界文化フォーラムアライアンス 日本幹事) 槇ひさ恵 (特定非営利活動法人ニンジン 常務理事)
審査結果	以下 3 団体を決定。 特定非営利活動法人こどもプロジェクト (継続) 福島県自主避難・母子避難新潟市自治連絡協議会 (継続) 特定非営利活動法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク (新規)
助成期間	2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日

#### <東日本大震災復興支援基金>

同基金には、認定特定非営利活動法人ジャパン・カインドネス協会の管理する寄附金つき飲料自動販売機の売り上げの一部として 1,004,378 円の寄附を受け入れ、総額の 85%にあたる 853,725 円を助成金として支出した。

自動販売機に支援先が明記されているため、昨年度選考委員会で決定された支援先に対し、継続して助成することを原則としている。継続的支援先については、昨年度活動報告と本年度事業計画を選考委員会に提出し、継続の可否について審査をおこなった。

受入寄附金額	1,004,378 円
助成額	853,725 円 (3 団体合計)
公募	公募実施せず (昨年度より継続助成)
審査会	2015 年 4 月 7 日
選考委員	秋葉武 (立命館大学産業社会学部 教授) 伊藤隆 (世界文化フォーラムアライアンス 日本幹事) 槇ひさ恵 (特定非営利活動法人ニンジン 常務理事)
審査結果	以下 3 団体を決定。

	財団法人たんぼぼの家 東日本大震災復興支援事業（継続） 特定非営利活動法人ビーンズふくしま（継続） 特定非営利活動法人遠野まごころネット（継続）
助成期間	2016年4月1日～2017年3月31日

<未来につなぐふるさと基金>

キャノンマーケティングジャパン株式会社が使用済みカートリッジの回収本数と PPC 用紙（コピー紙）の販売数に応じ、同社が実施する寄附を初めとし、古本の回収等による一般からの寄附も受け付けている。同基金への 2016 年度寄附受け入れ件数は 6 件、総額は 13,561,001 円だった。

2015 年度に選定した 5 団体（助成期間：2016 年 4 月 1 日～2017 年 12 月 31 日）に対する 2 年度分の活動資金として合計 4,999,360 円を助成した。

助成先である 5 団体において、2016 年度は、生物多様性の保全を促す 34 の市民参加型プログラムが実施され、731 名の市民が参加した。また、キャノンマーケティングジャパン株式会社が、助成先団体において実施する写真教室（機材と講師の無料提供。合計 5 回の実施）に協力した。また、公益財団法人日本自然保護協会と協力して、助成先団体の組織運営力の向上を目的とした組織診断や広報ワークショップ等の、運営面での支援を行った。また、キャノンマーケティングジャパン株式会社が生物多様性の啓発を目的として開設した「未来につなぐふるさとプロジェクト」のサイトに掲載するためのコンテンツの収集に協力した。

2017 年 2 月 17 日には、特定非営利活動法人グラウンドワーク三島の協力を得て、静岡県三島で報告会を開催し、助成先の 5 団体が参加して情報交換や意見交換を行った。

助成額	2,499,360 円（2016 年度） 2,500,000 円（2017 年度）
審査会	2015 年度に実施。2016 年 12 月 16 日に 2017 年度の継続審査を行った
審査委員	古沢広祐（国学院大学大学院経済学研究科教授） 古瀬繁範（NPO 法人地球と未来の環境基金理事長・事務局長） 福田真由子（公益財団法人 日本自然保護協会 自然保護部 市民活動推進室） 鈴木郁（キャノンマーケティングジャパン株式会社 執行役員 CSR 本部長）
審査結果	以下の 5 団体の継続助成を決定 特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島 特定非営利活動法人 棚田 LOVER's 真庭遺産研究会 特定非営利活動法人 西中国山地自然史研究会 特定非営利活動法人 おおいた環境保全フォーラム
助成期間	2016 年 4 月 1 日～2017 年 12 月 31 日

さらに、新たに5団体（助成期間：2017年4月1日～2018年12月31日）を選定し、1年度目の活動資金として2,500,000円を助成した。

助成額	2,500,000円
公募	2016年9月8日～2016年11月2日
審査会	2016年12月6日
選考委員	古沢広祐（国学院大学大学院経済学研究科教授） 古瀬繁範（NPO法人地球と未来の環境基金理事長・事務局長） 福田真由子（公益財団法人 日本自然保護協会 自然保護部 市民活動推進室） 渡辺徹（キャノンマーケティングジャパン株式会社 CSR本部長）
審査結果	以下の5団体を決定 特定非営利活動法人 もりねっと北海道 特定非営利活動法人 田んぼ 特定非営利活動法人 アサザ基金 特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所 特定非営利活動法人 河北潟湖沼研究所
助成期間	2017年4月1日～2018年12月31日

#### <教育基金>

教育の課題解決に取り組むNPOや社会的企業を応援するための教育基金は、全ての子ども・青少年が持てる力を十全に発揮し、人生を切り拓く力を身に着けることをめざすものである。2014年度に選考委員会で決定した助成先NPO法人 Teach For Japan のネクストティーチャープログラム（次世代のリーダーとなる資質をもった人材を選抜・育成し、正規の教員として学校現場へおくりだすプログラム）に対し、継続的に助成をしている。

寄附募集の結果、今年度は13件42,083円の寄附を受け入れ、昨年度からの繰越し分と合わせて38,199円を助成した。

受入寄附金額	42,083円（うち、前年繰越金：6,160円）
助成額	38,199円
公募	公募実施せず（2014年度より継続助成）
審査結果	特定非営利活動法人 Teach For Japan
助成期間	2016年4月～2017年3月

#### <アート&ヘルス基金>

「アート&ヘルス基金」は、アートの力で病院や福祉施設、学校、コミュニティケアの

場を豊かな空間とすることを目指すもので、人間が生きることを助けるアート活動を支える寄附の仕組みである。2016年度は14件、39,230円の寄附を受け入れた。助成は実施しなかった。

#### < A E D ・地域あんしん基金 >

キャノンマーケティングジャパン株式会社と共同で「A E D ・地域あんしん基金」を設立した。本基金はご寄附をもとに、多くの市民が利用する公共施設や福祉施設にA E Dを寄贈し、災害時などに避難所となることが想定される施設などに設置することを目的としている。運営管理はパブリックリソース財団が行い、キャノンマーケティングジャパン株式会社は募金活動の協力およびA E Dの設置、講習インストラクターの派遣を行った。本年度は、3件合計1,339,088円の寄附を受け入れた。

審査委員会で応募11団体を審査し、2016年度は3団体への寄贈を決定した。また、2015年度より持ち越した認定NPO法人フロンティア南相馬とのびのび学童保育所への寄贈を行った。

受入寄附金額	1,339,088 円
寄贈台数	3 台 (2016 年度) ※前年度以前受け入れ寄付分も含む
公募	財団ホームページ上で随時受け付け
応募件数	3 団体
審査会	2016 年 4 月 (メールによる持ち回り審査)
選考委員	浅野幸子 (早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」招聘研究員) 市瀬敬子 (NPO 法人世田谷福祉住環境コーディネーター研究会 理事長) 西尾元雄 (キャノンマーケティングジャパン株式会社総務・CSR 本部主席) 山崎富一 (特定非営利活動法人笑顔せたがや 理事・事務局長)
A E D 寄贈先 選定結果	3 団体を決定。  社会福祉法人砂町友愛園 砂町友愛園養護部 社会福祉法人聖友ホーム 児童養護施設聖友学園 社会福祉法人東京愛育苑 東京愛育苑向島学園

#### < A E D ・健康スポーツ基金 >

公益財団法人日本健康スポーツ連盟と共同で、「A E D ・健康スポーツ基金」を設立した。本基金はご寄附をもとに、地域スポーツに関わる多くの人がA E Dを使えるよう、地域のスポーツチームにA E Dを寄贈することを目的としている。運営管理はパブリックリソース財団が行い、日本健康スポーツ連盟は、募金活動、A E D普及についての啓蒙活動、講習インストラクターの派遣と講習の実施を行う。本年度は、16件合計1,639,413円の寄附を受け入れた。

受入寄附金額	1,639,413 円
寄贈台数	5 台 ※前年度以前受け入れ寄付分も含む
公募	財団ホームページ上で随時受け付け
応募件数	7 団体
審査会	2016 年 7 月、9 月（メールによる持ち回り審査）
選考委員	浅野幸子（早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」招聘研究員） 市瀬敬子（NPO 法人世田谷福祉住環境コーディネーター研究会 理事長） 西尾元雄（キャノンマーケティングジャパン株式会社総務・CSR 本部主席） 山崎富一（特定非営利活動法人笑顔せたがや 理事・事務局長） 玉利齊 公益財団法人日本健康スポーツ連盟理事長
AED 寄贈先 選定結果	5 団体を決定。 熊本サンデーズ R. F. C. ジュニア 山鹿ラグビースクール「レッドフォーンズ」 岩手県ラグビーフットボール協会 宮城県ラグビーフットボール協会 福島県ラグビーフットボール協会

#### <ふくしま未来基金>

「ふくしま未来基金」は福島県内の篤志家及び地域貢献を目指す企業からの寄附で創設された地域基金である。基金創設時に受け入れた大口寄付をもとに運営を行っている。2016 年度は、一般財団法人ふくしま未来研究会や一般社団法人ふくしま連携復興センターなど、複数の福島市内の中間支援組織や専門家と連携しながら、「未来づくり助成（1 年 300 万円＋コンサルタント支援 50 万円相当）」「まちづくり草の根助成（単年度支援 100 万円）」の二つの助成プログラムを実施した。総額 26,861,300 円を福島県内 16 団体（内 4 団体は 2015 年度からの継続）に助成した。なお、「未来づくり助成」は 2015 年度の採択団体は 3 年継続支援の 2 年目、2016 年度採択団体は 2 年継続支援の 1 年目にあたり、継続には 1 年毎の審査を行う。

「未来づくり助成」の助成団体に対して、組織基盤強化のためのコンサルタント派遣による経営支援を実施した。

また、全助成団体の理事およびスタッフを対象に、NPO マネジメント講座（通信講座に加えて、2016 年 8 月 5 日と 8 月 24 日にスクーリングを開催）を実施した。

受入寄附金額	2015 年度に受け入れた 94,500,000 円に加えて新たに 130,000 円
助成額	27,861,300 円（総額）※前年度以前受け入れ寄付分も含む
公募	2016 年 3 月 1 日～3 月 28 日
応募件数	46 団体
審査会	一次審査会：2016 年 4 月 27 日 二次審査会：2016 年 5 月 20 日
選考委員	鈴木 浩（福島大学名誉教授）

	黒田 かをり（般財団法人CSO ネットワーク 常務理事） 鷹野 秀征（弊財団理事 復興庁上席政策調査官） 中鉢 博之（NPO 法人ビーンズふくしま理事） 長澤 裕子（株式会社吾妻高原ウィンドファーム代表取締役）
選定結果	<未来づくり助成> 特定非営利活動法人超学際的研究機構 特定非営利活動法人 NPO ほうらい 特定非営利活動法人 Lotus 特定非営利活動法人よつくらぶ 特定非営利活動法人がんばろう福島、農業者等の会 グッデイマーケット実行委員会 特定非営利活動法人コースター 特定非営利活動法人福島県有機農業ネットワーク <まちづくり草の根助成> 特定非営利活動法人郡山ペップ子育てネットワーク 福島移住女性支援ネットワーク（EIWAN） フクシマ環境未来基地 特定非営利活動法人ふくしま30年プロジェクト 特定非営利活動法人青空保育たけの子 いいたてまでの会 特定非営利活動法人勿来まちづくりサポートセンター 福島大学災害ボランティアセンター
助成期間	2016年6月1日～2017年5月31日

#### ○NPO マネジメント講座の実施状況

通信講座の実施期間	2016年6月17日～2016年8月31日
通信講座講師	岸本幸子、鶴尾雅隆、春野真徳、藤本毅郎、坂本文武、雨森孝悦、田口由紀絵
スクーリング開催日	2016年8月5日：ミッション・ベイスト・マネジメント 2016年8月24日：ファンドレイジング
スクーリング会場	コラッセ福島
スクーリング講師	岸本幸子、ファンドレイジング・ラボ 代表 徳永洋子氏
参加者数	51名

2016年度は、未来を志向した夢のあるプロジェクトを地域に立脚しながら構想し実現する有為な「人材」を育てる「ふくしま志高塾」と、福島県内におけるNPOや社会起業家の活動を支援する人材を育てる「コンサルタント養成講座」、福島県内のNPOの組織基盤強化を促進するための「キャパシティービルディングフォーラム」を実施した。

○ふくしま志高塾の実施状況

実施期間	2016年7月～2017年2月
開催日	講義研修編：7月27日、28日 実地研修編：8月～9月の間の3日間 企画研修編：10月21日、22日 個別メンタリング：10月～2月 プレゼンテーション大会：2月8日
講師	佐藤勝三、田口佳史、田中勇一、佐野章二
メンター	鷹野秀征、臼井清、山崎富一
参加者数	8名

○コンサルタント養成講座の実施状況

実施期間	2016年9月1日～2017年2月24日
開催日	2016年9月1日、9月14日、9月28日、10月11日、10月26日、11月9日、12月22日、2017年1月25日、2月24日
場所	コラッセふくしま
講師	田口由紀絵、One Vison 中野未知子氏、株式会社 PubliCo 代表取締役 CEO 長浜洋二氏、ふくしま連携復興センター山崎 庸貴氏
受講者数	13名
組織診断実習	対象団体：3団体

○キャパシティービルディングフォーラムの実施状況

開催日時	2016年11月1日13時～16時30分
場所	コラッセふくしま
パネリスト	NPO 法人みんなのひろば 理事長 齋藤大介氏 NPO 法人しずおか環境教育研究会 事務局長 山本由加氏 株式会社 PubliCo 代表取締役 CEO 長浜洋二氏 公益財団法人パブリックリソース財団 評議員 山崎富一
参加者数	20名

<あい基金>

すべての女性が自らの力で人生を選択できる社会を目指し、経済的自立など女性にまつわる課題解決に取り組む事業を支援する、女性のための基金「あい基金」を創設した。

2016年度は第一回目の助成事業の他、「あいサロン」を2回、「遺贈・相続セミナー」を1回開催した。また、あい基金創設1周年イベントを実施し、寄付者が実際に寄付金がどのような団体に助成されるのかを実感できるよう、助成事業の公開プレゼンテーションを実施した。

2016年度は83件合計2,858,348円の寄附を受け入れ、審査会にて2団体を選定し、総額

1,000,000 円を助成した。なお、本助成プログラムは 1 団体あたり 1 年につき 50 万円の支援を行い、原則 2 年継続、総額 100 万円の助成である。なお、継続支援の際には審査を行う。

また、次点 2 団体には一般社団法人 Women Help Women より「Women Help Women 賞」として工業用ミシンが寄贈された。

受入寄附金額	2,858,348 円
助成額	1,000,000 円（総額）
公募	2016 年 9 月 20 日～10 月 31 日
応募	8 件
審査会	一次審査会：2016 年 11 月 28 日 二次審査会：2016 年 12 月 8 日
選考委員	黒田かをり（一般財団法人 CSO ネットワーク 常務理事・事務局長） 酒井香世子（損保ジャパン日本興亜株式会社 人事部 特命部長） 桜井陽子（特定非営利活動法人全国女性会館協議会 顧問）
審査結果	以下 2 団体を決定。 株式会社 WATALIS 特定非営利活動法人ウィメンズアイ
助成期間	2017 年 1 月 1 日～2017 年 12 月 31 日

#### <純 子ども基金>

本基金は、経済的に困難な状況で育つ子どもの学び、発育、食、住まい等の確保に取り組む団体を対象とするオリジナル基金である。当該団体の組織基盤強化に取り組むことを通じ、子どもたちが健やかに、心豊かに成長できる環境づくりを進めることを目的として設立。パブリックリソース財団がこれまで行ってきた組織診断、コンサルティング、社会的インパクト評価などのマネジメント支援の経験にもとづき、資金支援とメンタリング・サポートの両面から、継続的に団体を応援していく。2016 年度は 1 件、3,000,000 円の寄付を受け入れ、審査会にて 2 団体を選定した。当助成金プログラムは、1 団体につき初年度 100 万円、2 年度目 150 万円、3 年度目 150 万円、総額 400 万円を支給する。なお、継続支援には 1 年毎の審査が行われる。1 年目の 2 団体への助成金総額 2,000,000 円の支給は 2017 年度へ持ち越した。

受入寄附金額	3,000,000 円
助成額	2,000,000 円（総額）※支給は 2017 年度に持ち越し
公募	2017 年 2 月 1 日～2 月 28 日
応募	5 件
審査会	2017 年 3 月 21 日
選考委員	雨森孝悦（日本福祉大学 教授） 大森智恵子（特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター 理事） 中鉢博之（特定非営利活動法人ビーンズふくしま 理事）



審査結果	以下 2 団体を決定。 特定非営利活動法人寺子屋方丈舎 特定非営利活動法人ウィーズ
助成期間	2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日

(2) 社会貢献活動についての情報提供、相談事業

社会貢献活動を促進したいと考える企業を対象に、以下の情報提供や成果評価を行った。

<損保ジャパン日本興亜 ちきゅう倶楽部「Heart&Arts プログラム」>

損害保険ジャパン日本興亜株式会社と業務委託契約を結び、損害保険ジャパン日本興亜株式会社の全役職員がメンバーであるボランティア組織、「損保ジャパン日本興亜 ちきゅう倶楽部」の助成プログラム「Heart&Arts プログラム」の運営支援を行った。同プログラムは、美術活動、音楽活動、舞台芸術活動などのアート（芸術）の力を活用して、社会課題を解決する団体のうち、障がい者がアートの力で自分を自由に表現する活動を実践する団体の組織基盤強化を支援する助成プログラムである。当財団では、同プログラムの趣旨および応募要項の作成協力、助成団体の公募、助成団体の一次審査を行った。一次審査の際には、専門家（梅田亜由美氏、齋藤啓子氏、佐野晶子氏）のアドバイスを受けた。本プログラムにおいては、助成先の最終決定は、一次審査の結果をもとに、損保ジャパン日本興亜 ちきゅう倶楽部が行うこととなっており、最終的に 12 団体への助成を決定した。

公募期間	2016 年 12 月 6 日～2017 年 1 月 11 日
応募件数	35 団体
一次審査の方法	梅田亜由美氏（女子美術大学 非常勤講師、「みんなの美術館プロジェクト」実行委員）、齋藤啓子氏（武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科教授）、佐野晶子氏（アーツカウンシル東京／公益財団法人東京都歴史文化財団 企画室企画助成課 シニア・プログラムオフィサー）を専門家として招き、推薦団体を決定した
一次審査結果	11 団体を推薦

<azbil みつばち倶楽部>

Azbil みつばち倶楽部は、会員（アズビル株式会社の役職員の有志）が毎月 100 円を拠出して集めた寄附をもとに、会員が推薦する市民活動団体に対して資金支援をすることを目的としている。本年度は、アズビル株式会社と業務委託契約を結び、支援先の募集、受付、選定、連絡、報告書の取り寄せ、本プログラムへのアドバイス等を行った。2016 年度は 33 団体に対し、4,930,000 円の資金支援を行った。

<CSR 推進のための企業との対話>

企業の CSR レポートの第三者意見の執筆、一般社団法人CSRレビューフォーラムの行う企業のCSRのレビュー（企業とNGOとの対話）への参画などを通じ、市民セクターの立場からCSRの推進に取り組んだ。

<東日本大震災被災地視察のコーディネート>

クラブツーリズム株式会社と業務委託契約を結び、同社の社会貢献活動の実施支援を行った。本年度は同社の社員や「エコスタッフ」を対象に、東日本大震災被災地視察のコーディネートを行った。同社では本年度現地訪問、講演会、ボランティアなどを実施した。

(3) 寄附を推進するための普及啓発活動等に関する事業

1) 個人や企業等からの寄附を喚起するための事業

遺言や相続に関係する寄附やオリジナル基金の創設について説明する各種パンフレットの作成に取り組んだ。遺贈寄付推進のために全国レガシーギフト協会の設立にかかわった。

2) 寄附を推進する仕組みやプロジェクトの企画及び実施に係る事業

本年度は実施しなかった。

(4) 社会的活動を行う団体等に対する助成事業

(5) 社会的活動を行う団体等に対する表彰・顕彰事業

上記(4)及び(5)は、(1)の事業において受け入れた寄附を活用する事業。いずれの事業においても、広く対象を募集し、社会的活動や各種の公益活動分野に関して知見のある有識者で構成された委員会による公平かつ厳正な審査を経て選定を行う。(4)の助成事業については、(1)の事業で記載した。(5)については今期は実施しなかった。

(6) 社会的活動を行う団体等に対する研修事業

NPO法人の経営力・信頼性の向上を支援することを目的に、以下の研修事業を実施した。

1) NPOのマネジメントコンサルティングの実施

<特定非営利活動法人 しずおか環境教育研究会>

しずおか環境教育研究会が Panasonic NPO サポート ファンドの支援を受け、弊財団に組織診断およびマネジメントコンサルティングを業務委託した。弊財団では、2015年度に行った組織診断結果をもとに、マーケティング力強化のためのコンサルティング支援を、株式会社 PubliCo の協力を得て行った。

実施期間：2016年1月1日～2016年12月31日

コンサルティングの内容：マーケティング力強化のためのコンサルティング

<社会福祉法人 日本国際社会事業団>

日本国際社会事業団が Panasonic NPO サポート ファンドの支援を受け、弊財団に組織診断およびマネジメントコンサルティングを業務委託した。弊財団では、診断シートを活用した組織診断と、ファンドレイジングのツール作成支援を行った。

実施期間：2016年1月1日～2016年12月31日

コンサルティングの内容：組織診断とファンドレイジング支援

<特定非営利活動法人 えがおさんさん>

組織の規定等の整備、会議運営の効率化、収益の改善に取り組むことを目的に、組織基盤強化のためのマネジメントコンサルティングを受託した。

実施期間：2016年2月3日～2016年8月31日

コンサルティングの内容：規定類の作成支援、収益改善のためのアドバイス、理事会運営アドバイス、資金繰り、ファンドレイジング、組織図の作成等

<特定非営利活動法人 びわこ豊穰の郷>

びわこ豊穰の郷が Panasonic NPO サポート ファンドの支援を受け、弊財団に組織診断を業務委託した。弊財団では、診断シートを活用した内部環境分析、SWOT ワークショップ、意見交換会等を行い、組織診断結果を報告書にまとめて同団体に提出した。

実施期間：2016年1月9日～2016年12月31日

コンサルティングの内容：組織診断

<認定 NPO 法人みやぎ発達障害サポートネット>

宮城県仙台市に拠点を置く認定特定非営利活動法人みやぎ発達障害サポートネットの中期計画フォローアップの一環として、人材育成の研修を行った。

実施期間：2016年4月～2017年3月

## 2) NPO マネジメントに関する講座の運営および講師派遣

<講師派遣>

外部セミナー等への講師派遣を13回行った。

## 3) ソーシャルビジネスに関する講座企画、運営、起業支援

3つの社会的な法人（特定非営利活動法人自治創造コンソーシアム、特定非営利活動法人ニンジン、一般社団法人新興事業創出機構）の事務局運営支援を行った。

(7) 調査研究、情報発信、政策提言に関する事業

<Panasonic NPO サポート ファンド 2014 年助成事業の成果評価>

パナソニック株式会社が企業市民活動の一環として実施する「Panasonic NPO サポート ファンド」に関し、成果評価を行った。

評価対象は、2014年度組織基盤強化事業の助成対象団体（対象団体：11団体）である。本事業による資金提供及び非資金的取組みが、助成の受け手における組織基盤の強化、活動の充実による社会課題の解決の促進に与えた影響を検証した。また、組織基盤強化の手法として、組織診断を実施したことによる効果、および第三者によるコンサルティングの効果をはかった。

助成先団体の応募用紙・報告書類の分析、助成先団体へのアンケート調査を行った。弊財団では、同社に対し報告書を提出した。

#### <Panasonic NPO サポート ファンドの社会的インパクト評価>

2015年度に行った、同ファンドの組織基盤強化助成により生まれた社会的インパクトの評価結果の一部を英訳し、イギリスの Social Value に提出した。その際に得たフィードバックに沿って、2016年度は、アレルギー支援ネットワークの再評価を開始した。

組織能力の変化を定量的に把握するための評価手法として、弊財団が開発した「NPO マネジメント診断シート」を指標群として活用した。助成前と助成後の組織の状態をそれぞれ自己診断でアセスメントして比較することで、助成が組織基盤強化にどのような影響を与えたかを数値で把握した。

助成事業の社会的インパクト、および助成の投資対効果を測るための方法としては、SROIの手法を活用し、助成の投資対効果について定量的な評価を試みた。

評価対象団体：特定非営利活動法人 アレルギー支援ネットワーク

実施期間：2016年12月19日～本件業務の終了時まで

#### <金融機関職員による伴走支援事業への協力>

埼玉県県民生活部共助社会づくり課が行う、金融機関職員によるNPOの伴走支援推進事業において、講師およびファシリテーターの派遣を行った。

実施期間：2016年9月21日～2017年2月22日

#### <十和田市現代美術館10周年記念プロジェクト調査>

十和田市現代美術館を運営するエヌ・アンド・エー株式会社からの委託により、十和田市現代美術館10周年記念プロジェクト調査業務（市民意向把握分析）を実施した。弊財団では、調査設計、過去のアンケート調査結果の整理・分析、アンケート調査の実施、主たるステークホルダーに対するヒアリングによる情報収集を行い、調査報告書を提出した。

実施期間：2016年11月8日～2017年2月28日

<寄付を媒介とした多世代共創モデルの提案>

国立研究開発法人科学技術振興機構からの委託研究として、「寄付を媒介とした多世代共創モデルの提案」研究開発プロジェクトを開始した。2016年度は、第1回研究会を開催し、NPOの寄付適格性に関する評価手法の開発と先駆的団体の評価を開始した。また、オンラインを活用した寄付文化の拡大の実践のための、寄付者参加型WEBサイトの構築の準備を行った。

契約期間：2016年10月1日から2017年9月30日

以上

# 貸借対照表

平成29年 3月31日現在

公益財団パブリックリソース財団 第5期

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
<b>1. 流動資産</b>			
現金預金	8,418,396	6,208,781	2,209,615
現 金	256,930	142,353	114,577
普通預金 三 菱 東 京 U F J	1,449,816	4,996,512	△3,546,696
普通預金 ジャパンネット銀行	6,597,803	968,843	5,628,960
普通預金 八 千 代 銀行	95,146	93,448	1,698
当座預金 郵便振替口座	18,701	7,625	11,076
未 収 金	347,881	1,447,146	△1,099,265
前 払 費 用	585,110	580,160	4,950
流動資産合計	9,351,387	8,236,087	1,115,300
<b>2. 固定資産</b>			
<b>(1) 基本財産</b>			
基 本 金	3,000,000	3,000,000	0
基本財産合計	3,000,000	3,000,000	0
<b>(2) 特定資産</b>			
特 定 資 産	287,260,803	326,032,472	△38,771,669
特定資産合計	287,260,803	326,032,472	△38,771,669
<b>(3) その他固定資産</b>			
敷 金	320,000	320,000	0
その他固定資産合計	320,000	320,000	0
固定資産合計	290,580,803	329,352,472	△38,771,669
資産合計	299,932,190	337,588,559	△37,656,369
<b>II 負債の部</b>			
<b>1. 流動負債</b>			
未 払 費 用	3,823,204	899,544	2,923,660
前 受 収 益	1,028,336	65,880	962,456
前 受 会 費	10,000	30,000	△20,000
預 り 金	385,593	459,298	△73,705
流動負債合計	5,247,133	1,454,722	3,792,411
負債合計	5,247,133	1,454,722	3,792,411
<b>III 正味財産の部</b>			
<b>1. 指定正味財産</b>			
民 間 助 成 金	0	1,000,000	△1,000,000
指 定 寄 付 金	287,245,549	327,838,085	△40,592,536
指定正味財産合計	287,245,549	328,838,085	△41,592,536
(うち基本財産への充当額)	( 3,000,000 )	( 3,000,000 )	( 0 )
(うち特定資産への充当額)	( 284,245,549 )	( 325,838,085 )	( △ 41,592,536 )
<b>2. 一般正味財産</b>			
7,439,508	7,295,752	143,756	
正味財産合計	294,685,057	336,133,837	△41,448,780
負債及び正味財産合計	299,932,190	337,588,559	△37,656,369

# 正味財産増減計算書

平成28年 4月 1日から平成29年 3月31日まで

公益財団パブリックリソース財団 第5期

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[ 409 ]	[ 378 ]	[ 31 ]
基本財産受取利息	409	378	31
特定資産運用益	[ 42,539 ]	[ 98,219 ]	[ △ 55,680 ]
特定資産受取利息	42,539	98,219	△ 55,680
受取会費	[ 740,000 ]	[ 450,000 ]	[ 290,000 ]
賛助会員受取会費	740,000	450,000	290,000
事業収益	[ 23,389,433 ]	[ 13,809,932 ]	[ 9,579,501 ]
事業収入	23,389,433	13,809,932	9,579,501
受取補助金等	[ 200,000 ]	[ 0 ]	[ 200,000 ]
受取民間助成金	200,000	0	200,000
寄附金収益	[ 98,839,512 ]	[ 88,811,150 ]	[ 10,028,362 ]
受取寄附金振替	98,839,512	88,811,150	10,028,362
雑収益	[ 243,033 ]	[ 669,731 ]	[ △ 426,698 ]
受取利息	257	8,088	△ 7,831
雑収益	192,989	600,000	△ 407,011
コピー使用料	49,787	61,643	△ 11,856
経常収益計	123,454,926	103,839,410	19,615,516
(2) 経常費用			
事業費	[ 117,949,208 ]	[ 105,082,806 ]	[ 12,866,402 ]
役員報酬	2,534,400	2,534,401	△ 1
給料手当	13,254,476	12,586,717	667,759
臨時雇賃金	3,049,752	2,786,409	263,343
福利厚生費	2,120,805	2,487,247	△ 366,442
会議費	997,221	309,727	687,494
研究費	564,337	219,284	345,053
旅費交通費	3,912,266	1,948,366	1,963,900
通信運搬費	1,968,916	1,862,624	106,292
消耗什器備品費	0	912,536	△ 912,536
消耗品費	195,590	90,817	104,773
修繕費	119,340	0	119,340
印刷製本費	1,011,455	1,322,085	△ 310,630
光熱水料費	281,245	315,520	△ 34,275
賃借料	3,001,191	2,819,809	181,382
保険料	3,540	9,570	△ 6,030
支払手数料	964,737	956,669	8,068
諸謝金	2,522,535	877,973	1,644,562
弁護士税理士報酬	64,800	0	64,800
租税公課	1,347,500	6,410	1,341,090
支払助成金	65,082,150	64,586,504	495,646
物品寄付料	3,552,690	0	3,552,690
振込料	229,528	225,106	4,422
支払寄付金	3,000	0	3,000
委託費	11,059,734	7,549,388	3,510,346
雑費	0	220	△ 220
広告宣伝費	108,000	675,424	△ 567,424
管理費	[ 5,337,970 ]	[ 4,816,520 ]	[ 521,450 ]
役員報酬	633,600	633,599	1
給料手当	702,997	500,732	202,265
臨時雇賃金	617,891	914,710	△ 296,819
福利厚生費	503,088	81,214	421,874



科 目	当年度	前年度	増 減
会 議 費	525,630	576,951	△ 51,321
研 究 費	67,659	8,749	58,910
旅 費 交 通 費	144,093	264,744	△ 120,651
通 信 運 搬 費	127,811	160,705	△ 32,894
消 耗 品 費	322,304	284,615	37,689
修 繕 費	260,020	99,360	160,660
印 刷 製 本 費	107,508	170,205	△ 62,697
光 熱 水 料 費	49,631	55,676	△ 6,045
賃 借 料	466,728	456,322	10,406
支 払 手 数 料	256,658	113,246	143,412
弁 護 士 税 理 士 報 酬	367,200	367,200	0
租 税 公 課	2,100	4,550	△ 2,450
振 込 料	113,522	119,622	△ 6,100
委 託 費	69,530	0	69,530
雑 費	0	4,320	△ 4,320
經常費用計	123,287,178	109,899,326	13,387,852
評価損益等調整前当期經常増減額	167,748	△ 6,059,916	6,227,664
評価損益等計	0	0	0
当期經常増減額	167,748	△ 6,059,916	6,227,664
2. 經常外増減の部			
(1) 經常外収益			
經常外収益計	0	0	0
(2) 經常外費用			
過 年 度 損 益 修 正	[ 23,992 ]	[ 0 ]	[ 23,992 ]
經常外費用計	23,992	0	23,992
当期經常外増減額	△ 23,992	0	△ 23,992
当期一般正味財産増減額	143,756	△ 6,059,916	6,203,672
一般正味財産期首残高	7,295,752	13,355,668	△ 6,059,916
一般正味財産期末残高	7,439,508	7,295,752	143,756
II 指定正味財産増減の部			
受 取 補 助 金 等	[ △ 1,000,000 ]	[ 0 ]	[ △ 1,000,000 ]
受 取 民 間 助 成 金	△ 1,000,000	0	△ 1,000,000
指 定 寄 付 金	[ 58,246,976 ]	[ 158,141,789 ]	[ △ 99,894,813 ]
指 定 寄 付 金	58,246,976	158,141,789	△ 99,894,813
一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額	[ △ 98,839,512 ]	[ △ 88,811,150 ]	[ △ 10,028,362 ]
一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額	△ 98,839,512	△ 88,811,150	△ 10,028,362
当期指定正味財産増減額	△ 41,592,536	69,330,639	△ 110,923,175
指定正味財産期首残高	328,838,085	259,507,446	69,330,639
指定正味財産期末残高	287,245,549	328,838,085	△ 41,592,536
III 正味財産期末残高	294,685,057	336,133,837	△ 41,448,780

※当年度に科目名変更を行っている（前年度「消耗什器備品費」を当年度「物品寄付」に変更）。

## 財務諸表に関する注記

### 1. 重要な会計方針

消費税の会計処理：消費税の会計処理は税込方式によっている。

### 2. 基本財産の増減額及びその残高

基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
基本金	3,000,000	0	0	3,000,000
合計	3,000,000	0	0	3,000,000

### 3. 基本財産の財源の内訳

基本財産の財源の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	当期末残高	うち指定正味財産 からの充当額	うち一般正味財産 からの充当額	うち負債に 対応する額
基本財産				
基本金	3,000,000	3,000,000	0	0
合計	3,000,000	3,000,000	0	0

### 4. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
寄附基金				
ギブワン寄附金（オンライン）	2,843,816	23,103,033	23,456,757	2,490,092
ギブワン寄附金（オフライン）	0	4,079,251	2,379,251	1,700,000
未来につなぐふるさと基金	8,120,712	12,612,654	15,204,237	5,529,129
東日本震災復興／広域避難者支援基金	0	1,651,582	1,405,597	245,985
アート&ヘルス基金	76,082	36,721	5,814	106,989
ふくしま未来基金①	102,550,000	0	29,223,190	73,326,810
ふくしま未来基金②	141,850,000	127,750	9,558,411	132,419,339
ふくしま未来基金③	36,537,500	0	10,800	36,526,700
あい基金	1,764,323	2,585,128	1,494,278	2,855,173

AED 地域あんしん基金	2,577,920	1,457,554	2,534,901	1,500,573
AED 健康スポーツ基金	1,100,000	1,523,549	1,972,685	650,864
魚沼の未来基金	0	5,201,757	1,292,000	3,909,757
純 子ども基金	0	2,700,000	59,572	2,640,428
グッドジョブ基金	0	1,051,481	0	1,051,481
その他指定寄附金	200,000	0	200,000	0
教育基金	0	38,199	38,199	0
エイブルアート年賀状寄附金	0	31,038	31,038	0
財団運営管理基金	27,412,119	2,047,279	7,151,915	22,307,483
指定助成金	1,000,000	0	1,000,000	0
合 計	326,032,472	58,246,976	97,018,645	287,260,803

#### 5. 特定資産の財源の内訳

特定資産の財源の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	当期末残高	うち指定正味財産 からの充当額	うち一般正味財産 からの充当額	うち負債に 対応する額
特定資産				
寄附基金	287,260,803	284,245,549	0	3,015,254
合 計	287,260,803	284,245,549	0	3,015,254

#### 6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

助成金等 の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表 上の記載区分
調査・研究 公募助成	公益財団法人 トラスト未来 フォーラム	1,000,000	0	1,000,000	0	指定正味財産

#### 7. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	金額
経常収益への振替額	
指定寄附金の使用による振替額	98,839,512
合計	98,839,512

## 附属明細書

### 1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記「2. 基本財産の増減額及びその残高」及び「4. 特定資産の増減額及びその残高」において記載しているため記載を省略している。

# 財産目録

2017年 3月31日現在

公益財団法人パブリックリソース財団 第4期

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	現金	手元保管	運転資金として使用	256,930
	預金	普通預金 (以下4件)		
		三菱東京UFJ銀行新富町支店	運転資金として使用	1,449,816
		ジャパンネット銀行すずめ支店	運転資金として使用	4,263,638
		ジャパンネット銀行はやぶさ支店	RISTEX事業資金として使用	2,334,165
	八千代銀行八丁堀支店	運転資金として使用	95,146	
	振替口座			
	ゆうちょ銀行〇一九支店	運転資金として使用	18,701	
未収金	特非) 日本ファントレディング協会、アズビル㈱他からの未収額	業務受託に係る未収分	347,881	
前払費用	職員通勤定期 (4名)、中央厚生事業協同組合 (ライオンズマンション鉄砲洲) 他に対する前払額	事業経費および運営管理費に係る前払分	585,110	
流動資産合計				9,351,387
(固定資産)	基本財産			
	基本金 (指定)	定期預金 三菱東京UFJ銀行新富町支店	指定寄付金として受け入れた資金であり、公益目的保有財産として管理	3,000,000
特定資産	特定資産			287,260,803
		普通預金 (以下13件すべて)		
	GiveOne (オンライン)	ジャパンネット銀行すずめ支店	指定寄付金として受け入れた資金であり、GiveOneから魚沼の未来基金までの各寄付基金の事業財源として使用、ただし寄付金口については複数の寄付基金の事業財源を管理	168,654
	GiveOne (オフライン)	ジャパンネット銀行はやぶさ支店		1,700,000
	JNBCMJ未来につながるさと基金	ジャパンネット銀行すずめ支店		5,529,129
	JNB東日本基金	ジャパンネット銀行すずめ支店		245,985
	JNBアート&ヘルス基金	ジャパンネット銀行すずめ支店		106,989
	AED地域あんしん/健康スポーツ基金	ジャパンネット銀行すずめ支店		2,151,437
	ふくしま未来基金①	ジャパンネット銀行すずめ支店		11,826,810
	ふくしま未来基金②	ジャパンネット銀行はやぶさ支店		132,419,339
	ふくしま未来基金③	ジャパンネット銀行はやぶさ支店		4,662,500
	ふくしま未来基金③東邦銀	東邦銀行本店営業部		31,864,200
	あい基金	ジャパンネット銀行すずめ支店		2,855,173
	寄付金口	ジャパンネット銀行はやぶさ支店		3,691,909
	魚沼の未来基金	塩沢信用組合本店		3,909,757
	ふくしま未来基金① (定期)	三菱東京UFJ銀行新富町支店		53,000,000
	ふくしま未来基金① (定期)	八千代銀行八丁堀支店		8,500,000
	財団運営管理基金	普通預金 三菱東京UFJ銀行新富町支店	指定寄付金として受け入れた資金であり、財団の運営管理の財源として使用	16,307,483
	財団運営管理基金 (定期)	定期預金 三菱東京UFJ銀行新富町支店		6,000,000
	GiveOne未収金	寄付者306名カード決済分	指定寄付金として受け入れ予定の資金であり、GiveOne事業の財源として使用	2,321,438
その他固定資産	敷金	中央厚生事業協同組合 (ライオンズマンション鉄砲洲)	事務所賃借の敷金として使用	320,000
固定資産合計				290,580,803
資産合計				299,932,190

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動負債)				
	未払費用	一社)ふくしま連携復興センター、一社)新興事業創出機構、日本年金機構他に対する未払額	事業経費および運営管理費に係る未払分	3,823,204
	前受収益	パナソニック㈱からの前受額	業務受託に係る前受分	1,028,336
	前受会費	賛助会員1名からの前受額	賛助会費に係る前受分	10,000
	預り金	財団職員6名からの預り額	財団職員5名に係る税金および社会保険料の預り分	385,593
	給与源泉税			88,970
	報酬源泉税			14,526
	健康保険料			69,692
	厚生年金			112,728
	雇用保険料			74,077
	個人住民税			25,600
	流動負債合計			5,247,133
	負債合計			5,247,133
	正味財産			294,685,057

## 監査報告書

公益財団法人 パブリックリソース財団

代表理事(理事長) 久住 剛 様

2017(平成 29)年 5 月 23 日

公益財団法人 パブリックリソース財団

監 事 長池 直澄

監 事 富岡 順一

私たち監事は、2016(平成 28)年 4 月 1 日から 2017(平成 29)年 3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次の通り報告いたします。

### 1 監査の方法及びその内容

理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決議書類を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

### 2 監査意見

#### (1) 事業報告

①事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

②理事の職務の執行に関する不正な行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

#### (2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産および損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上

## 2017年度（平成29年度）事業報告

（2017（平成28）年4月1日から2018（平成30）年3月31日まで）

### 1 公益目的事業の状況

「公1 より良い社会の形成を推進するため、資金等の資源を募り管理活用し、また社会的活動を行う団体に対して助成、顕彰等を行うほか、社会貢献活動についての調査、研究、情報発信、相談・助言等を行う事業」にかかわる個別事業の本年度事業結果を以下に報告する。

#### （1） 資金等の資源を募り、管理・活用する事業

広く個人や企業等からの寄附を社会的活動につなげていくもので、当財団の中心的な事業である。受け入れた寄附金を助成金として活用する側面を含めて、本項に記載する。

2017年度に当財団が受け入れた寄附金は合計134,124,097円であった。当財団の呼びかけに賛同しご支援くださった、個人・企業の寄附者の皆様に深く感謝する。

#### 1) オンライン寄附サイト「Give One（ギブワン）」登録団体への寄附の募集

オンライン寄附サイト「Give One（ギブワン）」を運営し、不特定多数の市民、特に初めて寄附を行う人や仕事が忙しく社会貢献活動の機会のない人などを対象に、当財団による厳正な事前審査を経た、信頼できる団体の活動情報を提供し、寄附を募った。助成先団体情報の更新、団体活動レポートの送信などを通じ、寄附者が助成先事業を共に支えていることが実感できる仕組みを提供している。

2017年度は、新規登録団体の公募・審査を行い、新たに8団体を採用した。2017年度末の登録団体の状況は、前年度より7団体増加し171団体となったが、登録プロジェクト数は10減少して246プロジェクトだった。

2017年度のオンライン寄附金額（クレジットカードとジャパンネット銀行を通じた決済金額）は合計22,553,490円で、前年度比2%減となった。

寄付申込の翌々月末に助成金の振込を行うことから、2017年2月～2018年1月の間に寄付の申込のあった寄附金の85%にあたる18,105,385円を、登録団体のうち132団体に対する助成金にあて、15%を同サイトの運営費用とした。助成の団体別内訳実績は下記の通りである。

助成先団体名	受入寄附金額	助成金額
全国女性シェルターネット	2,315,000	1,837,700



パブリックリソース財団「Give One 寄付パッケージ」窓口 (総額)	1,791,635	1,721,656
(内訳)		
・【震災特別寄付パッケージ】被災地3県の8団体応援プロジェクト	986,987	860,200
・【東日本大震災】生活再建支援寄付パッケージ	430,500	422,025
・【シリア内戦】緊急人道支援寄付パッケージ	217,148	189,106
・【九州北部豪雨】緊急被災者支援パッケージ	77,000	65,450
・【熊本地震】緊急被災者支援パッケージ	41,000	70,125
・【東日本大震災】復興ふくしま支援寄付パッケージ	36,000	29,750
・災害弱者(障害者・アレルギー患者・外国人)寄付パッケージ	3,000	41,650
・【ネパール大地震】緊急支援パッケージ	0	43,350
Learning for All	1,651,000	0
フードバンク関西	964,382	824,525
ジャパン・プラットフォーム	949,862	766,358
フードバンク山梨	857,500	811,957
日本 IDDM ネットワーク	772,700	655,092
女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ	572,231	514,413
長野サマライズ・センター	551,100	443,700
CAPセンター・JAPAN	523,000	399,500
JUON(樹恩) NETWORK	376,500	314,075
越谷らるご	376,072	318,672
石西礁湖サンゴ礁基金	347,000	294,950
新宿連絡会	339,000	273,700
ビッグイシュー基金	335,200	285,600
白神山地を守る会	331,256	273,877
子どもシェルターモモ	302,000	236,300
子どもセンター「パオ」	302,000	274,125
レイプクライシスセンターTSUBOMI	301,000	294,950
難民を助ける会	297,000	247,350
国際環境 NGO FoE Japan	285,000	276,250
地球の友と歩む会 (LIFE)	281,800	237,824
働く女性の全国センター (ACW2)	276,000	264,350
ブリッジフォースマイル	250,000	220,150

フローレンス	249,450	259,632
SOS 子どもの村 JAPAN	244,000	187,850
パレスチナ子どものキャンペーン	235,500	197,625
日本地雷処理を支援する会 (JMAS)	233,400	199,240
パブリックリソース財団	231,000	193,800
トゥギャザー	224,550	212,117
自立支援センターふるさとの会	215,000	186,150
子どもセンターぼると	202,000	153,425
アムダ (AMDA)	192,000	181,050
キッズドア	190,000	170,000
ケア・インターナショナル ジャパン	177,335	97,750
日本クマネットワーク (JBN)	162,500	138,975
グッドネーバーズ・ジャパン	154,000	130,900
チャイルド・リソース・センター	153,000	134,300
日本クリニックラウン協会	135,000	124,100
日本国際民間協力会 (NICCO)	129,000	114,750
ジェン (JEN)	127,000	127,500
エイブル・アート・ジャパン	125,000	130,900
ぱれっと	117,000	107,950
遠野まごころネット	111,000	110,500
芸術家と子どもたち	111,000	86,700
女性の安全と健康のための支援教育センター	111,000	101,150
ピース ウィンズ・ジャパン	104,600	116,450
ハンガー・フリー・ワールド	101,000	85,850
シャプラニール	97,571	116,935
彩結び	97,000	93,500
子どもの虐待防止ネットワーク・あいち (CAPNA)	94,000	88,400
しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西	93,000	95,200
緑の地球ネットワーク	92,000	84,150
ビーンズふくしま	91,720	72,012
e-MADO 病気のこどもの総合ケアネット	86,000	73,100
日本点字図書館	80,500	71,400
タンザニア・ポレポレクラブ	80,000	68,000
多言語社会リソースかながわ	80,000	51,000
「みのお山麓保全ファンド」	75,000	66,300

CODE海外災害援助市民センター	71,000	64,600
アトピッ子地球の子ネットワーク	65,000	56,950
こどもコミュニティケア	65,000	54,400
シャンティ国際ボランティア会	65,000	51,850
マギーズ東京	65,000	57,800
楠の木学園	65,000	38,250
アイキャン	63,000	51,850
インフォメーションギャップバスター	60,500	42,925
民際センター	60,000	51,000
エバーラスティング・ネイチャー	58,000	56,100
ウォーターエイドジャパン	55,000	46,750
箕面こどもの森学園	52,476	46,298
こころ塾	48,500	40,375
DPI 日本会議	48,000	42,500
シャプラニール＝市民による海外協力の会	48,000	36,550
環境＝文化NGO ナマケモノ倶楽部	48,000	37,400
ジャパンハート	47,500	60,775
東京シュレー	47,000	31,450
エッジ	46,000	30,600
アジア・アフリカと共に歩む会	44,000	38,250
国際医療技術財団	44,000	37,400
知床自然大学院大学設立財団	41,000	34,850
チャイルド・ファンド・ジャパン	40,000	15,300
チャイルドラインあいち	40,000	25,500
まちぼっと	38,000	14,450
国際ビフレンダーズ 東京自殺防止センター	38,000	39,950
響愛学園	37,150	30,727
グリーンケア&ピアサポート 福島れんげの会	37,000	39,950
ふよう土2100	36,000	39,950
ACE	35,000	28,050
ブリッジエーシアジャパン	34,000	25,500
リソースセンターone	34,000	28,900
アジア協会アジア友の会	32,000	73,100
e-Education	31,000	24,650
ワールドキッズコミュニティ	30,000	17,000

カパティラン	26,000	13,600
日本芸能実演家団体協議会	26,000	12,750
おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ	25,000	19,550
病気の子ども支援ネット 遊びのボランティア	25,000	18,700
21世紀協会	24,000	24,650
のんびりすみちゃんの家	24,000	20,400
地雷廃絶日本キャンペーン	23,000	19,550
東京 YMCA “liby (リビー)”	23,000	19,550
あおもり NPO サポートセンター	21,000	18,700
創る村	20,000	17,000
霧多布湿原ナショナルトラスト	20,000	15,300
さなぎ達	18,000	0
気候ネットワーク	16,000	12,750
Hands On Tokyo	15,000	12,750
サイエンス・アクセシビリティ・ネット	14,000	11,050
神戸定住外国人支援センター (KFC)	14,000	11,900
ゆるら	13,000	11,050
アレルギー支援ネットワーク	12,000	10,200
インド福祉村協会	12,000	8,500
ムラのミライ	12,000	10,200
リヴォルヴ学校教育研究所	12,000	8,500
樹木・環境ネットワーク協会	12,000	10,200
高木仁三郎市民科学基金	11,000	32,300
緑と水の連絡会議	11,000	9,350
SOS子どもの村 JAPAN	10,000	38,250
ロボカップ日本委員会	10,000	8,500
児童虐待防止協会	10,000	8,500
東京 YMCA	10,000	0
日本国際ボランティアセンター (JVC)	10,000	8,500
トラ・ゾウ保護基金	7,000	4,250
ブリッジ エーシア ジャパン	7,000	9,350
JHP・学校をつくる会	6,000	4,250
(公益財団法人公害地域再生センター)	5,000	4,250
HIVと人権・情報センター	5,000	4,250
WE21 ジャパン	5,000	10,200

尾道空き家再生プロジェクト	5,000	5,950
チャンス・フォー・チルドレン	3,000	2,550
子どもの虐待防止センター	3,000	7,650
難病の子どもとその家族へ夢を	3,000	0
日本グッド・トイ委員会	2,000	1,700
いわき放射能市民測定室 「たらちね」	1,000	5,100
キープ協会	1,000	850
バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター	1,000	850
日本フィランソロピー協会	1,000	0
環境文化NGO・ナマケモノ倶楽部	0	3400
野生生物保全論研究会	0	850
<b>合計</b>	<b>22,553,490</b>	<b>18,105,385</b>

クレジットカードとジャパンネット銀行以外の決済手段による、Give One（ギブワン）登録団体に対する寄附は、14件、合計2,294,920円だった。

寄付者名	寄付金額
azbil みつばち倶楽部様	¥2,200,000
株式会社クオカード様（12件）	¥93,920
個人1名	¥1,000
<b>合計</b>	<b>¥2,294,920</b>

2016年度に受け取ったご寄付のうち、400,000円は助成を2018年度に再度繰り越すこととし、2017年度は以下の助成先に合計3,280,942円を助成した。

助成先団体名	助成額
ふよう士2100	¥485,000
ぱれっと	¥300,000
芸術家と子どもたち	¥294,180
キッズドア	¥285,000
エイブル・アート・ジャパン	¥200,000
長野サマライズ・センター	¥85,000
女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ	¥85,000
児童虐待防止協会	¥85,000
子どもセンターぼると	¥85,000

子どもセンター「パオ」	¥85,000
子どもシェルターモモ	¥85,000
国際環境 NGO FoE Japan	¥85,000
遠野まごころネット	¥85,000
越谷らるご	¥85,000
マギーズ東京	¥85,000
フードバンク山梨	¥85,000
パイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター	¥85,000
トゥギャザー	¥85,000
チャイルド・リソース・センター	¥85,000
エッジ	¥85,000
インフォメーションギャップバスター	¥85,000
e-MADO 病気のこどもの総合ケアネット	¥85,000
DPI 日本会議	¥85,000
CAP センター・JAPAN	¥85,000
アムダ (AMDA)	¥62,186
日本クリニクラウン協会	¥30,974
石西礁湖サンゴ礁基金	¥4,726
エバーラスティング・ネイチャー	¥3,026
トラ・ゾウ保護基金	¥850
<b>合計</b>	<b>¥3,280,942</b>

## 2) 財団運営への寄附

当財団の賛助会費（運営費 100%）は、個人 39 件、560,000 円、法人 2 件、200,000 円の合計 760,000 円だった。

また、財団指定寄付（運営費 100%）は、個人 3 件、72,635 円、法人 1 件、1,068 円、合計 73,703 円だった。

## 3) 社員参加型／顧客参加型寄附推進システムの提供・運営

### < 寄付付き年賀状 >

寄附金付き年賀状の企画は株式会社プリプレス・センターと協働して、2014 年版年賀状（当財団 2013 年度）から実施している。年賀状に支援先を明記するために、年賀状の販売開始に先立ち、2014 年度に助成先に関する選考委員会を開催し本年賀状のデザインで採用

される障がい者アートの活動（一般財団法人たんぼの家 エイブルアート・カンパニー）を助成先として決定した。2017年度は、2018年版年賀状販売による寄附金（25,844円）をもとに、21,968円の助成を実施した。

受入寄附金額	25,844 円
助成額	21,968 円
公募	公募実施せず（継続助成）
審査会	2014年7月11日～17日（書面による持回り開催）
選考委員	秋葉武（立命館大学産業社会学部 教授） 伊藤隆（世界文化フォーラムアライアンス 日本幹事） 槇ひさ恵（特定非営利活動法人ニンジン 常務理事）
審査結果	一般財団法人たんぼの家 エイブルアート・カンパニー
助成期間	2017年4月～2018年3月

#### <魚沼の未来基金>

本基金は、塩沢信用組合と協働して、魚沼地域の未来を切り拓く人材や団体を支援し、地域の誰もがいきいきと暮らせるふるさと魚沼を、将来にわたって継承・発展させることを目的として設立した。

本基金は、信用組合が組合員に呼びかけて寄付を募り共に地域に貢献するといった、金融機関が「社会貢献のプラットフォーム」を提供する日本初の取り組みとなる。2017年度は203件、5,071,006円の寄付を受け入れた。

2018年度より実施する返済不要の高校生向け奨学金制度「第二期はばたき奨学金」実施のため、魚沼地域のひとり親家庭の子女を対象に、38名（新1年生19名・新2・3年生）の奨学生の選定を行った。奨学金は、新1年生一人当たり96,000円（入学準備金36,000円、月齢奨学金60,000円（5,000円×12か月））、新2,3年生は60,000円（月齢奨学金60,000円（5,000円×12か月））である。2017年度は、第一期奨学生に対して、月齢奨学金12か月分、第二期奨学生に対して入学準備金36,000円の助成を行った。

受入寄附金額	5,071,006 円
総決定金額	2,964,000 円（96,000 円×19 名、60,000 円×19 名）
助成額	第一期：1,320,000 円 第二期：684,000 円（入学準備金のみ） 合計：2,004,000 円

公募	2017年10月1日～12月15日
応募	50件
審査会	2018年1月22日
選考委員	寺尾仁（新潟大学工学部建設学科 准教授） 林茂男（南魚沼市長） 佐藤雅一（魚沼市長） 小野澤一成（塩沢信用組合 理事長）
審査結果	38人を奨学生として選定
助成期間	2018年3月1日～2019年3月31日

< ささえあい QUO カード（寄付つきプリペイドカード） >

ささえあい QUO カード（寄付つきプリペイドカード）の企画は株式会社クオカードと協働して、2015年から販売を実施している。寄付先団体は、昨年度から引き続き「特定非営利活動法人石西礁湖サンゴ礁基金」「認定特定非営利活動法人エバーラスティング・ネイチャー」「特定非営利活動法人日本クリクラウン協会」「特定非営利活動法人芸術家と子どもたち」「AED・健康スポーツ基金」「アート&ヘルス基金」「認定特定非営利活動法人 AMDA（アムダ）」である。寄付金に関しては他プロジェクトとともに助成を行った。

受入寄付金額と枚数	石西礁湖サンゴ礁基金：5,560円、139枚 エバーラスティング・ネイチャー：3,520円、88枚 日本クリクラウン協会：35,880円、897枚 芸術家と子どもたち：10,800円、270枚 AED・健康スポーツ基金：27,480円、687枚 アート&ヘルス基金：39,040円、976枚 AMDA（アムダ）：38,160円、954枚 総額：160,440円、総販売枚数：4,011枚
-----------	--

4) 寄附基金の運営による継続的な寄附の推進今期は下記の基金を運営した。

< 東北 3.11 基金 >

本基金は 2017 年度より、「東日本大震災広域避難者支援基金」と「東日本大震災復興支



援基金」が一本化され、福島、宮城、岩手の子どもたちをめぐる課題を解決し、子どもたちが自らの力で未来を切り開いていく活動を支援するものである。認定特定非営利活動法人ジャパン・カインドネス協会の管理する寄附金つき飲料自動販売機の売り上げの一部として1,751,922円の寄附を受け入れ、2団体に対し、合計754,000円を助成した。

助成額	754,000円
公募	2017年5月10日～6月6日
審査会	2017年6月（メールによる持ち回り審査）
審査委員	秋葉武（立命館大学産業社会学部 教授） 伊藤隆（世界文化フォーラムアライアンス 日本幹事） 槇ひさ恵（特定非営利活動法人ニンジン 常務理事）
審査結果	以下の2団体を決定 特定非営利活動法人奏海の杜 一般社団法人ワタマスマイル
助成期間	2017年9月1日～2018年8月31日

#### <未来につなぐふるさと基金>

キャノンマーケティングジャパン株式会社が使用済みカートリッジの回収本数とPPC用紙（コピー紙）の販売数に応じ、同社が実施する寄附を初めとし、古本の回収等による一般からの寄附も受け付けている。同基金への2017年度寄附受け入れ件数は11件、総額は13,618,366円だった。

2016年度に選定した5団体（助成期間：2017年4月1日～2018年12月31日）に対する2年度分の活動資金として合計5,000,000円を助成した。

助成先である5団体において、2017年度は、生物多様性の保全を促す60の市民参加型プログラムが実施され、1,927名の市民が参加した。また、キャノンマーケティングジャパン株式会社が、助成先団体において実施する写真教室（機材と講師の無料提供。合計10回の実施）に協力した。また、公益財団法人日本自然保護協会と協力して、助成先団体の組織運営力の向上を目的とした組織診断や広報ワークショップ等の、運営面での支援を行った。また、キャノンマーケティングジャパン株式会社が生物多様性の啓発を目的として開設した「未来につなぐふるさとプロジェクト」のサイトに掲載するためのコンテンツの収集に協力した。

2018年3月1日には、東京都品川区のキャノンマーケティングジャパン株式会社本社で報告会を開催し、助成先の10団体が参加して情報交換や意見交換を行った。

助成額	2,500,000 円 (2017 年度) 2,500,000 円 (2018 年度)
審査会	2016 年度に実施。2017 年 12 月に 2018 年度の継続審査を行った (メールによる持ち回り審査)
審査委員	古沢広祐 (国学院大学大学院経済学研究科 教授) 古瀬繁範 (NPO法人地球と未来の環境基金 理事長・事務局長) 福田真由子 (公益財団法人日本自然保護協会 生物多様性保全室) 渡辺徹 (キヤノンマーケティングジャパン株式会社 CSR本部長)
審査結果	以下の 5 団体の継続助成を決定 特定非営利活動法人もりねっと北海道 特定非営利活動法人田んぼ 特定非営利活動法人アサザ基金 特定非営利活動法人森のライフスタイル研究所 特定非営利活動法人河北潟湖沼研究所
助成期間	2017 年 4 月 1 日～2018 年 12 月 31 日

さらに、新たに 5 団体 (助成期間 : 2018 年 4 月 1 日～2018 年 12 月 31 日) を選定し、1 年度目の活動資金として 2,243,000 円を助成した。

助成額	2,243,000 円
公募	2017 年 11 月 1 日～2018 年 1 月 10 日
審査会	2018 年 2 月 23 日
選考委員	古沢広祐 (国学院大学大学院経済学研究科 教授) 古瀬繁範 (NPO法人地球と未来の環境基金 理事長・事務局長) 福田真由子 (公益財団法人日本自然保護協会 生物多様性保全室) 貫井律 (キヤノンマーケティングジャパン株式会社 CSR本部CSR推進部 部長)

審査結果	以下の 5 団体を決定 特定非営利活動法人 霧多布湿原ナショナルトラスト 特定非営利活動法人 小網代野外活動調整会議 富士山アウトドアミュージアム 海辺工房ひとで 特定非営利活動法人 宮古島海の環境ネットワーク
助成期間	2018 年 4 月 1 日～2018 年 12 月 31 日

#### <教育基金>

教育の課題解決に取り組む NPO や社会的企業を応援するための教育基金は、全ての子ども・青少年が持てる力を十全に発揮し、人生を切り拓く力を身に着けることをめざすものである。2014 年度に選考委員会で決定した助成先 NPO 法人 Teach For Japan のネクストティーチャープログラム（次世代のリーダーとなる資質をもった人材を選抜・育成し、正規の教員として学校現場へおくりだすプログラム）に対し、継続的に助成をしている。寄附募集の結果、今年度は 8 件 6,284 円の寄附を受け入れ、6,284 円を助成した。

受入寄附金額	7,390 円
助成額	6,284 円
公募	公募実施せず（2014 年度より継続助成）
審査結果	特定非営利活動法人 Teach For Japan
助成期間	2017 年 4 月～2018 年 3 月

#### <アート&ヘルス基金>

「アート&ヘルス基金」は、アートの力で病院や福祉施設、学校、コミュニティケアの場を豊かな空間とすることを目指すもので、人間が生きることを助けるアート活動を支える寄附の仕組みである。2017 年度は 16 件、70,705 円の寄附を受け入れた。助成は実施しなかった。

#### <AED・地域あんしん基金>

キャノンマーケティングジャパン株式会社と共同で「AED・地域あんしん基金」を設立した。本基金はご寄附をもとに、多くの市民が利用する公共施設や福祉施設に AED を

寄贈し、災害時などに避難所となることが想定される施設などに設置することを目的としている。運営管理はパブリックリソース財団が行い、キャノンマーケティングジャパン株式会社は募金活動の協力およびAEDの設置、講習インストラクターの派遣を行った。本年度は、3件合計1,690,880円の寄附を受け入れた。

審査委員会で応募8団体を審査し、2017年度は4団体への寄贈を決定した。

受入寄附金額	1,690,880 円
寄贈台数	4 台 ※前年度以前受け入れ寄付分も含む
公募	財団ホームページ上で随時受け付け
応募件数	8 団体
審査会	2017 年 6 月、10 月（メールによる持ち回り審査）
選考委員	浅野幸子（早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」 招聘研究員） 市瀬敬子（NPO法人世田谷福祉住環境コーディネーター研究会 理事長） 西尾元雄（キャノンマーケティングジャパン株式会社総務・CSR本部 主席） 山崎富一（特定非営利活動法人笑顔せたがや 理事・事務局長）
AED寄贈先選 定結果	4 団体を決定。 特定非営利活動法人のぞみ教育会 のぞみの丘保育園 社会福祉法人天使園 今井城学園 社会福祉法人諸岳会 精舎児童学園 特定非営利活動法人東京シューレ

#### < AED・健康スポーツ基金 >

公益財団法人日本健康スポーツ連盟と共同で、「AED・健康スポーツ基金」を設立した。本基金はご寄附をもとに、地域スポーツに関わる多くの人がAEDを使えるよう、地域のスポーツチームにAEDを寄贈することを目的としている。運営管理はパブリックリソース財団が行い、日本健康スポーツ連盟は、募金活動、AED普及についての啓蒙活動、講習インストラクターの派遣と講習の実施を行う。本年度は、13件合計28,930円の寄附を受け入れた。

受入寄附金額	28,930 円
寄贈台数	1 台 ※前年度以前受け入れ寄付分も含む

公募	財団ホームページ上で随時受け付け
応募件数	2 団体
審査会	2017 年 6 月（メールによる持ち回り審査）
選考委員	浅野幸子（早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」 招聘研究員） 市瀬敬子（NPO法人世田谷福祉住環境コーディネーター研究会 理事長） 西尾元雄（キヤノンマーケティングジャパン株式会社総務・CSR本部 主席） 山崎富一（特定非営利活動法人笑顔せたがや 理事・事務局長） 玉利齊（公益財団法人日本健康スポーツ連盟 理事長）
A E D 寄贈先選 定結果	1 団体を決定。 特定非営利活動法人いいざかサポーターズクラブ

#### <ふくしま未来基金>

「ふくしま未来基金」は福島県内の篤志家及び地域貢献を目指す企業からの寄附で創設された地域基金である。基金創設時に受け入れた大口寄付をもとに運営を行っている。2016年度は、一般財団法人ふくしま未来研究会や一般社団法人ふくしま連携復興センターなど、複数の福島市内の中間支援組織や専門家と連携しながら、「未来づくり助成（1年300万円+コンサルタント支援50万円相当）」「まちづくり草の根助成（単年度支援100万円）」の二つの助成プログラムを実施した。総額30,829,100円を福島県内外18団体（内5団体は2016年度からの継続）に助成した。なお、「未来づくり助成」は2015年度の採択団体は3年継続支援の3年目、2016年度採択団体は2年継続支援の2年目、2017年度採択団体は2年継続支援の1年目にあたり、継続には1年毎の審査を行う。

「未来づくり助成」の助成団体に対して、組織基盤強化のためのコンサルタント派遣による経営支援を実施した。

また、全助成団体の理事およびスタッフを対象に、NPOマネジメント講座（通信講座に加えて、2017年9月29日にスクーリングを開催）を実施した。

助成額	30,829,100 円（総額） ※前年度以前受け入れ寄付分も含む
公募	2017 年 4 月 1 日～4 月 30 日
応募件数	40 団体
審査会	一次審査会：2017 年 5 月 22 日 二次審査会：2017 年 6 月 1 日

<p>選考委員</p>	<p>鈴木浩（福島大学名誉教授）  黒田かをり（般財団法人CSO ネットワーク 常務理事）  鷹野秀征（弊財団理事 復興庁上席政策調査官）  中鉢博之（NPO法人ビーンズふくしま 理事）  長澤裕子（株式会社吾妻高原ウィンドファーム 代表取締役）  紅邑晶子（オフィスBeni 代表）</p>
<p>選定結果</p>	<p>&lt;未来づくり助成&gt;  一般社団法人えこえね南相馬研究機構  特定非営利活動法人がんばろう福島、農業者等の会  GoodDayMarket実行員会  特定非営利活動法人コースター  特定非営利活動法人福島県有機農業ネットワーク  特定非営利活動法人みんなのひろば  特定非営利活動法人Leaf  特定非営利活動法人Lotus</p> <p>&lt;まちづくり草の根助成&gt;  公益社団法人あい権利擁護支援ネット  特定非営利活動法人あさがお  一般社団法人オープンデータラボ  一般社団法人JAST（日本ソーシャルセラピストアカデミー）  特定非営利活動法人青春基地  特定非営利活動法人勿来まちづくりサポートセンター  福島移住女性支援ネットワーク（EIWAN）  特定非営利活動法人ふくしま30年プロジェクト  福島大学スタ☆ふくプロジェクト  ママチャンネルまつり実行委員会</p>
<p>助成期間</p>	<p>2017年6月1日～2018年5月31日</p>

○ NPO マネジメント講座の実施状況

通信講座の実施期間	2017年7月12日～2017年9月30日
通信講座講師	岸本幸子、鵜尾雅隆、春野真徳、藤本毅郎、坂本文武、雨森孝悦、田口由紀絵
通信講座受講者数	23名
スクーリング開催日	2017年9月29日：ファンドレイジング
スクーリング会場	福島テルサ
スクーリング講師	ファンドレイジング・ラボ 代表 徳永洋子
スクーリング参加者数	14名

2017年度は、未来を志向した夢のあるプロジェクトを地域に立脚しながら構想し実現する有為な「人材」を育てる「ふくしま志高塾」と、福島県内におけるNPOや社会起業家の活動を支援する人材を育てる「コンサルタント養成講座」を実施した。また、事業・組織の再編・継続、人材のケアと再編成、財源の再構成などの課題と方策を探ることを目的として、福島県内外の専門家や先駆的取り組みを行うリーダー等と公開研究会「福島の未来に向けて、リラクゼーションとリストラクチャリング《再構成》で、ギアチェンジしよう！！」を実施した。

○ ふくしま志高塾の実施状況

実施期間	2017年7月～2017年2月
開催日	講義研修編：7月12日、13日 実地研修編：8月～10月 企画研修編：10月25日、26日の間の3日間 個別メンタリング：10月～2018年2月 プレゼンテーション大会：2018年2月7日
講師	佐藤勝三、田口佳史、田中勇一、小松洋介
メンター	鷹野秀征、臼井清、山崎富一、楨ひさ恵
参加者数	9名

○ コンサルタント養成講座の実施状況

実施期間	2017年10月1日～2018年2月24日
開催日	通信講座：2017年10月1日～11月17日 集合研修：2017年10月28日、11月11日、12月2日、 2018年1月20日、2月3日、2月24日
場所	TKP東京駅八重洲カンファレンスセンター
講師	田口由紀絵（公益財団法人パブリックリソース財団 事務局長） 加留部孝行（NPO法人日本ファシリテーション協会 フェロー） 中野未知子（株式会社One Vison） 長浜洋二（株式会社 PubliCo 代表取締役CEO）
受講者数	16名
組織診断実習	対象団体：4団体

○ 公開研究会の実施状況

開催日時	2018年1月16日 13時～17時30分
場所	郡山市民文化会館
プレゼンター	NPO法人ビーンズふくしま 中鉢博之 NPO法人ホールアース研究所ホールアース自然学校 和田祐樹 NPO法人ザ・ピープル 吉田恵美子 NPO法人しんせい 鈴木綾
コメンテーター	社会起業大学 田中勇一 税理士 安倍修太郎
参加者数	27名

<あい基金>

すべての女性が自らの力で人生を選択できる社会を目指し、経済的自立など女性にまつわる課題解決に取り組む事業を支援する、女性のための基金「あい基金」を運営している。

2017年度は第二期目の助成事業の他、「遺贈・相続セミナー」を2回開催した。また、あい基金創設2周年イベントを実施し、寄付者が実際に寄付金がどのような団体に助成されるのかを実感できるよう、助成事業の公開プレゼンテーションを実施した。

2017年度は59件合計465,281円の寄附を受け入れた。審査会にて新規に1団体を選定し、総額500,000円を助成した。また、第一期助成団体についても継続審査を行い、2団



体に対して総額 1,000,000 円を助成した。なお、本助成プログラムは 1 団体あたり 1 年につき 50 万円の支援を行い、原則 2 年継続、総額 100 万円の助成である。なお、継続支援の際には審査を行う。

受入寄附金額	465,281 円
助成額	1,500,000 円（総額） ※前年度以前受け入れ寄付分も含む
公募	2017 年 11 月 6 日～12 月 15 日
応募	11 件
審査会	一次審査会：2018 年 1 月 25 日 二次審査会：2018 年 2 月 1 日
選考委員	黒田かをり（一般財団法人 CSO ネットワーク 常務理事・事務局長） 酒井香世子（損保ジャパン日本興亜株式会社 人事部特命部長） 桜井陽子（特定非営利活動法人全国女性会館協議会 顧問）
審査結果	株式会社WATALIS 特定非営利活動法人ウィメンズアイ インディゴ気仙沼
助成期間	2018 年 1 月 1 日～2018 年 12 月 31 日

#### <純 子ども基金>

本基金は、経済的に困難な状況で育つ子どもの学び、発育、食、住まい等の確保に取り組む団体を対象とするオリジナル基金である。当該団体の組織基盤強化に取り組むことを通じ、子どもたちが健やかに、心豊かに成長できる環境づくりを進めることを目的として設立。パブリックリソース財団がこれまで行ってきた組織診断、コンサルティング、社会的インパクト評価などのマネジメント支援の経験にもとづき、資金支援とメンタリング・サポートの両面から、継続的に団体を応援していく。

2017 年度は、2016 年度に行った審査会にて決定した 2 団体に対して、助成金総額 2,000,000 円を支給した。当助成金プログラムは、1 団体につき初年度 100 万円、2 年度目 150 万円、3 年度目 150 万円、総額 400 万円を支給する。なお、継続助成の可否は 1 年毎に改めて審査を行って決定する。

受入寄附金額 (2016年度)	3,000,000 円
助成額	2,000,000 円（総額）

公募	2017年2月1日～2月28日
応募	5件
審査会	2017年3月21日 ※2016年度に実施
選考委員	雨森孝悦（日本福祉大学 教授） 大森智恵子（特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター 理事） 中鉢博之（特定非営利活動法人ビーンズふくしま 理事）
審査結果	以下2団体を決定。 特定非営利活動法人寺子屋方丈舎 特定非営利活動法人ウィーズ
助成期間	2017年4月1日～2018年3月31日

#### <I.H.K 基金>

将来の医療福祉分野での活躍を願って、東京都内の児童養護施設または里親宅で暮らしている児童（女子）が高校卒業後に進学する費用を助成し、児童の社会的自立を支援することを目的に設立。進学後3年～4年間の授業料の一部として総額100万円の返済不要の奨学金を支給する。また、認定特定非営利活動法人ブリッジフォースマイルと連携し、就学期間中、対象者に若い社会人ボランティアを派遣し、社会的自立に向けて、近い年齢層からの相談しやすい環境を提供していく。

2017年度は840,000円の寄付を受け入れた。奨学金選考委員会にて、1名の奨学生を選定し、1年目の奨学金として400,000円を支給した。

受入寄附金額	840,000円
総決定金額	1,000,000円 (1年目400,000円、2年目300,000円、3年目300,000円)
助成額	400,000円
公募	2017年9月1日～10月13日
応募	2件
審査会	2017年11月5日
選考委員	小園弥生（横浜市男女共同参画センター横浜南 管理事業課長） 山北洋二（あしなが育英会 顧問）
審査結果	1人を奨学生として選定
助成期間	2018年3月29日～2021年3月31日

<ゆーじチャレンジ基金>

将来の医療福祉分野での活躍を願って、静岡県内の児童養護施設または里親宅（ファミリーホーム含む）で暮らしている児童が高校卒業後に進学する費用を助成し、児童の社会的自立を支援することを目的に設立。進学後 2 年～4 年間の授業料の一部として総額 100 万円の返済不要の奨学金を支給する。

2017 年度は 2,860,000 円の寄付を受け入れた。奨学金選考委員会にて、1 名の奨学生を選定し、1 年目の奨学金として 500,000 円を支給した。

受入寄附金額	2,860,000 円
総決定金額	1,000,000 円 (1 年目 500,000 円、2 年目 500,000 円)
助成額	500,000 円
公募	2017 年 9 月 1 日～10 月 13 日
応募	1 件
審査会	2017 年 11 月 16 日
選考委員	小野田全宏（静岡県ボランティア協会市民活動センター 理事長） 日詰一幸（静岡大学 人文社会科学部長）
審査結果	1 人を奨学生として選定
助成期間	2018 年 3 月 29 日～2020 年 3 月 31 日

<高山基金>

2017 年度は、弊財団への遺贈寄付による寄付が 1 件実行された。寄付者は高齢の助成で、戦後の苦しい時代を生き抜いた経験から、日本のすべての子どもたちの健やかな成長を願っての寄付である。来年度以降、基金は運営される予定である。

<大和証券グループ 輝く未来へ こども応援基金>

本基金は、株式会社大和証券グループ本社の持続可能な社会の実現に向けて貢献する活動の一環として、子どもの環境改善や貧困の連鎖を防止することを目的に創設された基金である。本基金では、子どもの人生への意欲を育み将来の貧困リスクを低減する先駆的な事業が、効果的で継続的なものになるための事業開発を支援し、子どもの貧困対策におけるイノベーションを応援する。

2017 年度は 2 件、11,439,160 円の寄付を受け入れ、審査会にて 3 団体を選定した。当

助成金プログラムは、1 団体につき初年度 300 万円、2 年度目 300 万円、3 年度目 300 万円、総額 900 万円を支給する。なお、継続支援には 1 年毎の審査が行われる。

助成額	9,000,000 円
審査会	一次審査会：2017 年 12 月 12 日 二次審査会：2017 年 12 月 18 日
審査委員	萩原なつ子（立教大学社会学部・同大学院21世紀社会デザイン研究科教授、認定NPO法人日本NPOセンター 副代表理事） 赤石千衣子（特定非営利活動法人しんぐるまざあず・フォーラム 理事長） 岡本拓也（ソーシャルマネジメント合同会社 代表、特定非営利活動法人ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京 理事） 小河光治（公益財団法人あすのば 代表理事） 瀬戸真一（株式会社大和証券グループ本社 広報部長）
審査結果	以下の 3 団体を決定 特定非営利活動法人SOS子どもの村JAPAN 特定非営利活動法人PIECES 特定非営利活動法人Learning for All
助成期間	2018 年 1 月 1 日～2018 年 12 月 31 日

#### <ゴールドマン・サックス基金>

ゴールドマン・サックス証券株式会社は、人材の多様化を経営理念の一つに掲げ、社内外でダイバーシティや女性活躍推進等に取り組んでいる。2017 年度は「子育てと仕事の両立」に関する課題を有する団体に対し、子育てと仕事の両立を体現できる取り組みの実践および組織内における制度導入・仕組化をテーマに、プロボノ社員による伴走支援に取り組んだ。弊財団では、一般社団法人 RCF と共にゴールドマン・サックスのプロボノ社員をサポートした。

#### (2) 社会貢献活動についての情報提供、相談事業

社会貢献活動を促進したいと考える企業を対象に、以下の情報提供や成果評価を行った。

#### <SOMPO ちきゅう倶楽部「Heart&Arts プログラム」>

損害保険ジャパン日本興亜株式会社と業務委託契約を結び、損害保険ジャパン日本興亜株式会社の全役職員がメンバーであるボランティア組織、「SOMPO ちきゅう倶楽部」の助成プログラム「Heart&Arts プログラム」の運営支援を行った。同プログラムは、美術活動、音楽活動、舞台芸術活動などのアート（芸術）の力を活用して、社会課題を解決する団体のうち、障がい者がアートの力で自分を自由に表現する活動を実践する団体の組織基盤強化を支援する助成プログラムである。当財団では、同プログラムの趣旨および応募要項の作成協力、助成団体の公募、助成団体の一次審査を行った。一次審査の際には、専門家（梅田亜由美氏、佐野晶子氏）のアドバイスを受けた。本プログラムにおいては、助成先の最終決定は、一次審査の結果をもとに、SOMPO ちきゅう倶楽部が行うこととなっており、最終的に7団体への助成を決定した。

#### <azbil みつばち倶楽部>

Azbil みつばち倶楽部は、会員（アズビル株式会社の役職員の有志）が毎月100円を拠出して集めた寄附をもとに、会員が推薦する市民活動団体に対して資金支援をすることを目的としている。本年度は、アズビル株式会社と業務委託契約を結び、支援先の募集、受付、選定、連絡、報告書の取り寄せ、本プログラムへのアドバイス等を行った。2017年度は26団体に対し、3,800,000円の資金支援を行った。

#### <東日本大震災被災地視察のコーディネート>

クラブツーリズム株式会社と業務委託契約を結び、同社の社会貢献活動の実施支援を行った。本年度は同社の社員や「エコスタッフ」を対象に、東日本大震災被災地視察のコーディネートを行った。同社では本年度現地訪問、講演会、ボランティアなどを実施した。

### (3) 寄附を推進するための普及啓発活動等に関する事業

#### 1) 個人や企業等からの寄附を喚起するための事業

遺言や相続に係る寄附やオリジナル基金の創設について説明する各種パンフレットの作成に取り組んだ。遺贈寄付推進のために全国レガシーギフト協会の設立にかかわった。

## 2) 寄附を推進する仕組みやプロジェクトの企画及び実施に係る事業

本年度は実施しなかった。

### (4) 社会的活動を行う団体等に対する助成事業

上記(4)は、(1)の事業において受け入れた寄附を活用する事業である。いずれの事業においても、広く対象を募集し、社会的活動や各種の公益活動分野に関して知見のある有識者で構成された委員会による公平かつ厳正な審査を経て選定を行う。(4)の助成事業については、(1)の事業で記載した。

### (5) 社会的活動を行う団体等に対する表彰・顕彰事業

<「チャンピオン・オブ・チェンジ」日本大賞>

本賞は、アメリカ在住の日本出身女性、厚子・東光・フィッシュの提案により、創設された。フィッシュ・ファミリー財団と業務委託契約を結び、本賞の実施を担った。超高齢社会、大災害、子どもの貧困、地域社会の疲弊など様々な課題に対して、勇気をもって自ら行動を起こし、地道に活動を続け、地域社会の課題解決や新たなシステムの構築に取り組んできた女性たちを表彰すると同時に、その活動を広く知らしめ、受賞者の志、知恵やアイデアをより多くの女性と共有し、後につなぎ、より良い社会を築くための社会貢献活動の意義と喜びを広める事を目指している。

公募	2017年9月14日～9月30日
応募	145件
選考会	一次選考会：2017年11月17日 最終選考会：2017年12月4日
選考委員	井上英之（一般社団法人INNO-Lab International 共同代表） 黒田かをり（一般財団法人CSOネットワーク 事務局長・理事） 龍治玲奈（日本マイクロソフト株式会社 法務政策企画統括本部 渉外・社会貢献課長） 厚子・東光・フィッシュ（フィッシュ・ファミリー財団 共同創設者・理事）

	ダニエル・ペレル（ティファニー・アンド・カンパニー・ジャパン・ インク 社長）
選考結果	<大賞> 高橋亜美（児童養護施設等退所者のアフターケア相談所「ゆずりは」 所長） <ファイナリスト> 風間美代子（特定非営利活動法人多摩草むらの会 代表理事） 兼子佳恵（特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク（やっぺす） 代表理事） 久保田翠（認定特定非営利活動法人クリエイティブサポートレッツ 理事長） 武村幸奈（株式会社はたけのみかた 代表取締役社長） 藤原志帆子（特定非営利活動法人人身取引被害者サポートセンターラ イトハウス 代表） 杜恵美子（特定非営利活動法人NPO亀岡人権交流センター 理事長） 矢田明子（特定非営利活動法人おっちラボ 代表理事）
表彰式	2017 年 12 月 4 日
表彰内容	<大賞> 正賞（ティファニー社製カップ）と副賞 100 万円 <ファイナリスト> ティファニー社製の記念品

（６） 社会的活動を行う団体等に対する研修事業

NPO 法人の経営力・信頼性の向上を支援することを目的に、以下の研修事業を実施した。

1) NPO のマネジメントコンサルティングの実施

<特定非営利活動法人 JUON NETWORK>

JUON NETWORK が Panasonic NPO サポート ファンドの支援を受け、弊財団に組織  
 診断を業務委託した。

実施期間：2017年1月1日～2017年7月31日

コンサルティングの内容：組織診断

<社会福祉法人 日本国際社会事業団>

日本国際社会事業団が Panasonic NPO サポート ファンドの支援を受け、弊財団にマネジメントコンサルティングを業務委託した。弊財団では、中期計画策定のためのコンサルティングを開始した。

契約期間：2018年1月1日～2018年12月31日

コンサルティングの内容：中期計画策定支援

## 2) NPO マネジメントに関する講座の運営および講師派遣

<講師派遣>

外部セミナー等への講師派遣を9回行った。

## 3) ソーシャルビジネスに関する講座企画、運営、起業支援

3つの社会的な法人（特定非営利活動法人自治創造コンソーシアム、特定非営利活動法人ニンジン）の事務局運営支援を行った。

## (7) 調査研究、情報発信、政策提言に関する事業

<Panasonic NPO サポート ファンド 2015年に助成事業を終了した団体を対象とした成果評価>

パナソニック株式会社が企業市民活動の一環として実施する「Panasonic NPO サポート ファンド」に関し、成果評価を行った。

評価対象は、2015年に同ファンドによる組織基盤強化事業を終了した団体（対象団体：11団体）である。本事業による資金提供及び非資金的取組みが、助成の受け手における組織基盤の強化、活動の充実による社会課題の解決の促進に与えた影響を検証した。また、組織基盤強化の手法として、組織診断を実施したことによる効果、および第三者によるコンサルティングの効果をはかった。



助成先団体の応募用紙・報告書類の分析、診断シートを活用した事前・事後の変化分析、助成先団体へのアンケート調査を行った。弊財団では、同社に対し報告書を提出した。

#### <Panasonic NPO サポート ファンドの社会的インパクト評価>

2015 年度に行った、同ファンドの組織基盤強化助成により生まれた社会的インパクトの評価結果の一部を英訳し、イギリスの **Social Value** に提出した。その際に得たフィードバックに沿って、2016 年度にアレルギー支援ネットワークの再評価を開始し、2017 年度には評価報告書の作成・英訳・**Social Value** への報告書 (SROI レポート) の再提出を行った。SROI レポートが認証 (Assurance) を得るためには、さらなる修正が必要であるとのフィードバックを得たので、再度修正・再提出をし、最終的に 2018 年 1 月 2 日に、SROI レポートに対する認証 (Assurance) を取得することができた。

認証を得た SROI レポートをもとに、パナソニック株式会社に報告を行った上で、2018 年 1 月 24 日に開催された Panasonic NPO サポート ファンドの贈呈式において、評価結果のサマリーを発表した。

組織基盤強化の SROI レポートが認証を得たことで、組織基盤強化への支援が、事業成果の増大に対して「てこ」のように働き、社会的インパクトが大きくなったことが明らかになった。また、SROI は、組織基盤強化の社会的インパクト評価手法として活用できることがわかった。さらに、国際水準に照らし合わせて、今回の評価の適切性と透明性を確保することができた。

評価対象団体：特定非営利活動法人アレルギー支援ネットワーク

Social Value への再提出日：2017 年 8 月 7 日

Social Value の認証取得日：2018 年 1 月 2 日

#### <Social Value Assurance 取得 SROI レポート報告会の実施>

Social Value から、日本で最初となる認証を得た SROI レポートの内容を広く報告するために、SROI レポート報告会を実施した。

日時：2018 年 3 月 28 日 10 時～12 時

主催：弊財団、パナソニック株式会社

場所：環境情報センター（東京都中央区）

参加者：30 名

<金融機関職員による伴走支援事業への協力>

埼玉県県民生活部共助社会づくり課が行う、金融機関職員による NPO の伴走支援推進事業において、講師およびファシリテーターの派遣を行った。

実施期間：2017年8月18日～2018年1月30日

<寄付を媒介とした多世代共創モデルの提案>

国立研究開発法人科学技術振興機構からの委託研究として、「寄付を媒介とした多世代共創モデルの提案」研究開発プロジェクトに取り組んだ。NPO の寄付適格性に関する評価手法の開発と先駆的団体の評価事例を作成した。また、オンラインを活用した寄付文化の拡大の実践のための、寄付者参加型 WEB サイトの構築を行った。

契約期間：2016年10月1日から2017年9月30日

以上

**貸借対照表**  
2018年3月31日現在

公益財団法人パブリックリソース財団 第4期

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	495,035	8,418,396	△ 7,923,361
現金	210,701	256,930	△ 46,229
普通預金 三菱東京UFJ	180,840	1,449,816	△ 1,268,976
普通預金 ジャパンネット銀行	0	6,597,803	△ 6,597,803
普通預金 八千代銀行	76,124	95,146	△ 19,022
当座預金郵便振替口座	27,370	18,701	8,669
未払費用	3,468,766	347,881	3,120,885
前受収益	632,420	585,110	47,310
流動資産合計	4,596,221	9,351,387	△ 4,755,166
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産	3,000,000	3,000,000	0
基本財産合計	3,000,000	3,000,000	0
(2) 特定資産			
特定資産	296,348,181	287,260,803	9,087,378
特定資産合計	296,348,181	287,260,803	9,087,378
(3) その他固定資産			
敷金	320,000	320,000	0
その他固定資産合計	320,000	320,000	0
固定資産合計	299,668,181	290,580,803	9,087,378
資産合計	304,264,402	299,932,190	4,332,212
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
短期借入金	2,300,000	0	2,300,000
未払費用	5,148,794	3,823,204	1,325,590
前受収益	0	1,028,336	△ 1,028,336
前受会費	0	10,000	△ 10,000
預り金	837,041	385,593	451,448
流動負債合計	8,285,835	5,247,133	3,038,702
負債合計	8,285,835	5,247,133	3,038,702
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 指定正味財産			
指定寄付金	295,772,335	287,245,549	8,526,786
指定正味財産合計	295,772,335	287,245,549	8,526,786
(うち基本財産への充当額)	( 3,000,000 )	( 3,000,000 )	( 0 )
(うち特定資産への充当額)	( 292,772,335 )	( 284,245,549 )	( 8,526,786 )
2. 一般正味財産	206,232	7,439,508	△ 7,233,276
正味財産合計	295,978,567	294,685,057	1,293,510
負債及び正味財産合計	304,264,402	299,932,190	4,332,212

正味財産増減計算書  
2017年 4月 1日から2018年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1). 経常収益			
基本財産運用益	[ 298 ]	[ 409 ]	[ △ 111 ]
基本財産受取利息	298	409	△ 111
特定資産運用益	[ 6,248 ]	[ 42,539 ]	[ △ 36,291 ]
特定資産受取利息	6,248	42,539	△ 36,291
賛助会費	[ 760,000 ]	[ 740,000 ]	[ 20,000 ]
職員受取会費	760,000	740,000	20,000
事業収入	[ 18,420,674 ]	[ 23,389,433 ]	[ △ 4,968,759 ]
事業補助金等	18,420,674	23,389,433	△ 4,968,759
受取補助金	[ 0 ]	[ 200,000 ]	[ △ 200,000 ]
受取民間助成金	0	200,000	△ 200,000
寄付金収益	[ 124,848,111 ]	[ 98,839,512 ]	[ 26,008,599 ]
受取寄付金	124,848,111	98,839,512	26,008,599
雑収益	[ 24,034 ]	[ 243,033 ]	[ △ 218,999 ]
受取利息	41	257	△ 216
雑収益	23,993	192,989	△ 168,996
コピ一使用料	0	49,787	△ 49,787
経常収益計	144,059,365	123,454,926	20,604,439
(2). 経常費用			
事業費	[ 147,120,224 ]	[ 117,949,208 ]	[ 29,171,016 ]
役員報酬	3,222,400	2,534,400	688,000
給料	16,875,399	13,254,476	3,620,923
臨時雇賃料	3,687,327	3,049,752	637,575
法定福利生	3,048,069	0	3,048,069
福厚議費	0	2,120,805	△ 2,120,805
会利生費	1,736,405	997,221	739,184
研究会費	393,373	564,337	△ 170,964
出張費	5,231,670	0	5,231,670
旅通費	648,370	3,912,266	△ 3,263,896
通信費	1,665,983	1,968,916	△ 302,933
支物品	73,951,117	65,082,150	8,868,967
支物品	1,402,920	3,552,690	△ 2,149,770
支物品	0	3,000	△ 3,000
支物品	2,881,834	2,522,535	359,299
支物品	25,088,161	11,059,734	14,028,427
支物品	359,932	195,590	164,342
支物品	969,414	1,011,455	△ 42,041
支物品	0	281,245	△ 281,245
支物品	317,785	0	317,785
支物品	0	3,001,191	△ 3,001,191
支物品	1,762,560	0	1,762,560
支物品	1,121,547	0	1,121,547
支物品	8,380	3,540	4,840
支物品	1,479,634	964,737	514,897
支物品	0	229,528	△ 229,528
支物品	0	64,800	△ 64,800
支物品	883,100	1,347,500	△ 464,400
支物品	12,000	0	12,000
支物品	322,840	108,000	214,840
支物品	50,004	119,340	△ 69,336
管 理 費	[ 4,172,417 ]	[ 5,337,970 ]	[ △ 1,165,553 ]
役員報酬	805,600	633,600	172,000
給料	447,081	702,997	△ 255,916
臨時雇賃料	559,277	617,891	△ 58,614
法定福利	170,706	0	170,706

科 目	当年度	前年度	増減
福 利 厚 生 費	0	503,088	△ 503,088
会 議 費	193,936	525,630	△ 331,694
研 究 費	0	67,659	△ 67,659
出 張 費	114,120	0	114,120
旅 交 通 費	16,888	144,093	△ 127,205
通 信 費	116,995	127,811	△ 10,816
委 託 費	0	69,530	△ 69,530
消 耗 品 費	165,623	322,304	△ 156,681
印 刷 製 本 費	35,119	107,508	△ 72,389
光 熱 水 料 費	0	49,631	△ 49,631
水 道 光 熱 費	56,080	0	56,080
貸 借 料 費	0	466,728	△ 466,728
地 代 家 賃 料	311,040	0	311,040
リ ー ス 料	180,838	0	180,838
支 払 手 数 料	183,014	256,658	△ 73,644
振 込 料	0	113,522	△ 113,522
弁 護 士 税 理 士 報 酬	367,200	367,200	0
租 税 公 課	2,700	2,100	600
諸 修 費	435,400	0	435,400
雑 費	0	260,020	△ 260,020
費	10,800	0	10,800
經常費計	151,292,641	123,287,178	28,005,463
評価損益等調整前当期經常増減額	△ 7,233,276	167,748	△ 7,401,024
評価損益計	0	0	0
当期經常増減額	△ 7,233,276	167,748	△ 7,401,024
2. 經常外増減の部			
(1). 經常外収益			
經常外収益計	0	0	0
(2). 經常外費用			
過年度損益修正	[ 0 ]	[ 23,992 ]	[ △ 23,992 ]
經常外費用計	0	23,992	△ 23,992
当期經常外増減額	0	△ 23,992	23,992
当期一般正味財産増減額	△ 7,233,276	143,756	△ 7,377,032
一般正味財産期首残高	7,439,508	7,295,752	143,756
一般正味財産期末残高	206,232	7,439,508	△ 7,233,276
II 指定正味財産増減の部			
受 取 補 助 金 等	[ 0 ]	[ △ 1,000,000 ]	[ 1,000,000 ]
受 取 民 間 助 成 金	0	△ 1,000,000	1,000,000
指 定 寄 付 金	[ 133,374,897 ]	[ 58,246,976 ]	[ 75,127,921 ]
指 定 寄 付 金	133,374,897	58,246,976	75,127,921
一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額	[ △ 124,848,111 ]	[ △ 98,839,512 ]	[ △ 26,008,599 ]
一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額	△ 124,848,111	△ 98,839,512	△ 26,008,599
当期指定財産増減額	8,526,786	△ 41,592,536	50,119,322
指定正味財産期首残高	287,245,549	328,838,085	△ 41,592,536
指定正味財産期末残高	295,772,335	287,245,549	8,526,786
III 正味財産期末残高	295,978,567	294,685,057	1,293,510

※当年度に科目名変更等を行っている。

以下変更等

前年度「福利厚生費」を当年度「法定福利費」

前年度「旅費交通費」を当年度「出張費」と「旅費交通費」に分ける。

前年度「光熱水料費」を当年度「水道光熱費」

前年度「賃借料」を当年度「地代家賃」と「リース料」に分ける。

前年度「支払手数料」、「振込料」を当年度「支払手数料」にまとめる。

## 財務諸表に関する注記

### 1. 重要な会計方針

消費税の会計処理：消費税の会計処理は税込方式によっている。

### 2. 基本財産の増減額及びその残高

基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
基本金	3,000,000	0	0	3,000,000
合計	3,000,000	0	0	3,000,000

### 3. 基本財産の財源の内訳

基本財産の財源の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	当期末残高	うち指定正味財産 からの充当額	うち一般正味財産 からの充当額	うち負債に 対応する額
基本財産				
基本金	3,000,000	3,000,000	0	0
合計	3,000,000	3,000,000	0	0

### 4. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
寄附基金				
ギブワン寄附金（オンライン）	2,490,092	21,918,971	20,053,433	4,355,630
ギブワン寄附金（オフライン）	1,700,000	2,226,079	3,520,608	405,471
未来につなぐふるさと基金	5,529,129	13,326,171	4,970,378	13,884,922
東日本 3.11(旧復興／避難者応援)基金	245,985	1,699,365	964,230	981,120
アート&ヘルス基金	106,989	68,389	164	175,214
ふくしま未来基金①	73,326,810	0	32,438,756	40,888,054
ふくしま未来基金②	132,419,339	33,950	16,322,849	116,130,440
ふくしま未来基金③	36,526,700	10,800	0	36,537,500
あい基金	2,855,173	440,310	1,795,483	1,500,000
AED 地域あんしん基金	1,500,573	1,689,380	1,600,000	1,589,953
AED 健康スポーツ基金	650,864	24,591	400,000	275,455
魚沼の未来基金	3,909,757	5,071,006	2,684,000	6,296,763

純 子ども基金	2,640,428	0	2,640,428	0
グッドジョブ基金	1,051,481	1,000,000	962	2,050,519
ゆーじチャレンジ基金	0	2,708,000	768,000	1,940,000
I.H.K.基金	0	776,000	656,000	120,000
高山基金	0	53,040,000	0	53,040,000
大和証券グループこども応援基金	0	10,893,827	10,243,827	650,000
ゴールドマンサックス基金	0	13,573,125	11,369,785	2,203,340
教育基金	0	6,284	6,284	0
エイブルアート年賀状寄附金	0	25,069	25,069	0
その他指定寄附金	0	72635	72635	0
財団運営管理基金	22,307,483	4,770,945	13,754,628	13,323,800
合 計	287,260,803	133,374,897	124,287,519	296,348,181

注：受け入れる指定寄附金は、寄附者の指定に基づき、別に定めのある基金を除いて寄附金額の20%を上限に、当財団の運営管理費に充当するため財団運営管理基金に受け入れている。

#### 5. 特定資産の財源の内訳

特定資産の財源の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	当期末残高	うち指定正味財産 からの充当額	うち一般正味財産 からの充当額	うち負債に 対応する額
特定資産				
寄附基金	296,348,181	292,772,335	0	3,575,846
合 計	296,348,181	292,772,335	0	3,575,846

#### 6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	金額
経常収益への振替額	
指定寄附金の使用による振替額	124,848,111
合計	124,848,111

#### 7. 関連当事者との取引の内容

関連当事者との取引の内容は、次のとおりである。

(単位：円)

属性	氏名	職名	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
役員	久住幸子	専務理事 (代表理事)	資金の借入	2,300,000	短期借入金	2,300,000

取引条件：期間は平成30年3月23日～平成30年4月30日（返済期限）、借入に係る当財団の支払利息なし、返済に係る費用がある場合は当財団の負担とする。

## 附属明細書

### 1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記「2. 基本財産の増減額及びその残高」及び「4. 特定資産の増減額及びその残高」において記載しているため記載を省略している。



# 財産目録

2018年 3月31日現在

公益財団法人パブリックリソース財団 第6期

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
<b>(流動資産)</b>			
現金 預金	手元保管	運転資金として使用	210,701
	普通預金 (以下2件)		
	三菱東京UFJ銀行新富町支店	運転資金として使用	180,840
	八千代銀行八丁堀支店	運転資金として使用	76,124
	振替口座		
未収金	ゆうちょ銀行〇一九支店	運転資金として使用	27,370
	US-Japan Council、パナソニック(株)他からの未収額	業務受託に係る未収分	3,468,766
前払費用	職員通勤定期(5名)、中央厚生事業協同組合(ライオンズマンション鉄砲洲)他に対する前払額	事業経費および運営管理費に係る前払分	632,420
<b>流動資産合計</b>			<b>4,596,221</b>
<b>(固定資産)</b>			
基本財産	基本金(指定)	定期預金 三菱東京UFJ銀行新富町支店	3,000,000
特定資産	特定資産		296,348,181
	GiveOne(オンライン)	指定寄付金として受け入れた資金であり、GiveOne他の各寄付基金の事業の財源として使用	459,201
	Giveone(オフライン)		405,471
	JNBCMJ未来につなぐふるさと基金		13,884,922
	東日本3.11基金		981,120
	アート&ヘルス基金		175,214
	ゴールドマンサックス基金		2,203,340
	ふくしま未来基金①		8,388,054
	ふくしま未来基金②		116,130,440
	ふくしま未来基金③		4,662,500
	ふくしま未来基金③東邦銀	東邦銀行本店営業部	31,875,000
	あい基金	指定寄付金として受け入れた資金であり、財団の運営管理の財源として使用	1,500,000
	AED地域あんしん基金		1,865,408
	魚沼の未来基金	塩沢信用組合本店	6,296,763
	グッドジョブ基金	指定寄付金として受け入れた資金であり、GiveOne事業の財源として使用	2,050,519
	ゆーじチャレンジ基金		1,940,000
	I.H.K.基金		120,000
	大和証券グループ子ども応援基金		650,000
	高山基金	指定寄付金として受け入れた資金であり、財団の運営管理の財源として使用	53,040,000
	ふくしま未来基金①(定期)	定期預金(以下2件)	24,000,000
	ふくしま未来基金①(定期)	三菱東京UFJ銀行新富町支店 八千代銀行八丁堀支店	8,500,000
	財団運営管理基金	普通預金 三菱東京UFJ銀行新富町支店	13,323,800
	GiveOne未収金	指定寄付金として受け入れ予定の資金であり、GiveOne事業の財源として使用	3,896,429
その他固定資産	敷金	事務所賃借の敷金として使用	320,000
<b>固定資産合計</b>			<b>299,668,181</b>
<b>資産合計</b>			<b>304,264,402</b>

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動負債)	短期借入金	代表理事からの借入	運転資金に充当	2,300,000
	未払費用	(一社)ふくしま連携復興センター、日本年金機構、(一社)GDM実行委員会他に対する未払額	事業経費および運営管理費に係る未払分	5,148,794
	預り金	報酬源泉税、財団職員7名からの預り額	報酬源泉税、財団職員7名に係る税金および社会保険料の預り分	837,041
	給与源泉税	↓	↓	123,380
	報酬源泉税			48,497
	健康保険料			201,250
	厚生年金			336,720
	雇用保険料			55,994
個人住民税			71,200	
流動負債合計				8,285,835
負債合計				8,285,835
正味財産				295,978,567

注：受け入れる指定寄附金は、寄附者の指定に基づき、別に定めのある基金を除いて寄附金額の20%を上限に、当財団の運営管理費に充当するため財団運営管理基金に受け入れている。

## 監査報告書

公益財団法人 パブリックリソース財団  
代表理事(理事長) 久住 剛 様

2018(平成 30)年 5 月 25 日

公益財団法人 パブリックリソース財団

監 事 跡田 直澄

監 事 富岡 順一

私たち監事は、2017(平成 29)年 4 月 1 日から 2018(平成 30)年 3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次の通り報告いたします。

### 1 監査の方法及びその内容

理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決議書類を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

### 2 監査意見

#### (1) 事業報告

①事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

②理事の職務の執行に関する不正な行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

#### (2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産および損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上

## 2018年度（平成30年度）事業報告

（2018（平成30）年4月1日から2019（平成31）年3月31日まで）

### 1 公益目的事業の状況

「公1 より良い社会の形成を推進するため、資金等の資源を募り管理活用し、また社会的活動を行う団体に対して助成、顕彰等を行うほか、社会貢献活動についての調査、研究、情報発信、相談・助言等を行う事業」にかかわる個別事業の本年度事業結果を以下に報告する。

#### （1）資金等の資源を募り、管理・活用する事業

広く個人や企業等からの寄附を社会的活動につなげていくもので、当財団の中心的な事業である。受け入れた寄附金を助成金として活用する側面を含めて、本項に記載する。

2018年度に当財団が受け入れた寄附金は合計161,074,072円であった。当財団の呼びかけに賛同しご支援くださった、個人・企業の寄附者の皆様に深く感謝する。

#### 1) オンライン寄附サイト「Give One（ギブワン）」登録団体への寄附の募集

オンライン寄附サイト「Give One（ギブワン）」を運営し、不特定多数の市民、特に初めて寄附を行う人や仕事が忙しく社会貢献活動の機会のない人などを対象に、当財団による厳正な事前審査を経た、信頼できる団体の活動情報を提供し、寄附を募った。助成先団体情報の更新、団体活動レポートの送信などを通じ、寄附者が助成先事業を共に支えていることが実感できる仕組みを提供している。

2018年度は、新規登録団体の公募・審査を行い、新たに18団体を採用した（年度末までにプロジェクト登録しているのは15団体）。2018年度末の登録団体の状況は、前年度より13団体増加し184団体となった。登録プロジェクト数は常時変動はあるものの、年度末時点での状況としては昨年度より26増加して272プロジェクトとなった。

2018年度（2018年4月～2019年3月）のオンライン受入寄附金額（クレジットカードとジャパンネット銀行を通じた決済金額）は合計29,048,060円で、前年度比約30%増となり、目標の前年度10%増を上回ることが出来た。

寄附申込の翌々月末に助成金の振込を行うことから、2018年度（2018年4月～2019年3月）に登録団体に対する助成した金額は、2018年2月～2019年1月の間に寄附の申込のあった受入寄附金26,388,933円の85%にあたる22,430,593円であった。また運営管理費用として、同15%の3,958,340円を充当した。

2018年度（2018年4月～2019年3月）の団体別受入寄附金額及び助成金額の実績は下記の通りである。

※ 受入寄附金額降順

助成先団体名	受入寄附金額	助成金額
Learning for All	5,025,106	5,071,119
Earth Company（アース・カンパニー）	2,510,000	0
パブリックリソース財団「Give One 寄付パッケージ」窓口	2,200,425	1,988,500
【東日本大震災】生活再建支援寄付パッケージ	136,000	120,700
【東日本大震災】復興ふくしま支援寄付パッケージ	22,000	21,250
【震災特別寄付パッケージ】被災地3県の7団体応援プロジェクト	186,000	269,439
【シリア内戦】緊急人道支援寄付パッケージ	10,000	11,900
【熊本地震】緊急被災者支援パッケージ	16,500	17,425
【西日本豪雨】緊急被災者支援パッケージ	1,721,995	1,463,696
【北海道胆振東部地震】緊急被災者支援パッケージ	42,930	36,491
【インドネシアスラウェシ島地震】緊急支援パッケージ	65,000	47,600
日本クマネットワーク（JBN）	2,018,660	330,446
全国女性シェルターネット	1,348,500	1,243,975
フードバンク関西	824,612	664,795
ジャパン・プラットフォーム	819,002	652,176
女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ	751,308	622,005
はたらく女性の全国センター(ACW2)	456,000	391,850
子どもシェルターモモ	448,000	347,650
難病の子どもとその家族へ夢を	409,100	349,435
長野サマライズ・センター	408,000	363,035
JUON(樹恩) NETWORK	389,500	338,725
日本芸能実演家団体協議会	377,220	321,487
石西礁湖サンゴ礁基金	376,770	316,200
スマイリングホスピタルジャパン	373,000	294,950
ピース ウィンズ・ジャパン	372,100	318,495
CAPセンター・JAPAN	369,500	355,300
アムダ（AMD A）	354,600	307,360
新宿連絡会	320,500	277,100
地球の友と歩む会（LIFE）	276,650	220,703

ケア・インターナショナル ジャパン	269,737	279,286
子どもセンター「パオ」	255,000	221,000
越谷らるご	254,720	211,067
SOS 子どもの村 JAPAN	252,500	200,600
フードバンク山梨	249,620	225,777
フローレンス	236,000	208,250
日本地雷処理を支援する会（JMAS）	230,700	197,795
ビッグイシュー基金	225,400	208,760
難民を助ける会	216,000	195,500
白神山地を守る会	213,207	227,198
日本 IDDM ネットワーク	206,700	185,045
ブリッジフォースマイル	194,000	144,500
パレスチナ子どものキャンペーン	184,000	176,800
パブリックリソース財団	184,000	183,600
グッドネーバーズ・ジャパン	181,000	148,750
チャリティーサンタ	176,000	149,600
more trees	175,000	140,250
フェアスタートサポート	175,000	119,850
こころ塾	162,000	124,950
国際環境 NGO FoE Japan	162,000	150,450
キッズドア	156,500	128,775
自立支援センターふるさとの会	140,500	126,225
ぱれっと	138,000	116,450
子どもセンターぽると	124,000	116,450
ReRoots	122,500	95,625
あおもり NPO サポートセンター	115,000	97,750
芸術家と子どもたち	106,000	107,100
チャイルド・リソース・センター	103,000	89,250
大雪山自然学校	101,000	85,850
ピアサポートネットしぶや	100,000	76,500
CODE 海外災害援助市民センター	97,000	77,350
日本国際民間協力会（NICCO）	95,000	84,150
日本クリニックラウン協会	90,000	72,250
緑の地球ネットワーク	89,000	84,150
子どもの虐待防止ネットワーク・あいち（CAPNA）	88,000	77,350

カパティラン	86,550	55,718
エバーラスティング・ネイチャー	86,000	65,450
トゥギャザー	85,000	62,050
インフォメーションギャップバスター	80,000	85,000
リトルワンズ	77,000	65,450
エイブル・アート・ジャパン	76,500	67,575
ビーンズふくしま	74,720	67,762
ハンガー・フリー・ワールド	73,000	70,550
アトピッ子地球の子ネットワーク	72,000	61,200
楽の会リーラ	69,500	55,250
まちぼっと	67,000	69,700
ジャパンハート	63,500	41,650
彩結び	62,872	62,791
民際センター	62,000	52,700
こどもコミュニティケア	59,000	51,850
エイズ孤児支援 NGO・PLAS	58,000	48,450
H I Vと人権・情報センター	55,000	38,250
遠野まごころネット	51,000	44,200
おおいた環境保全フォーラム	50,000	42,500
日本点字図書館	50,000	35,700
箕面こどもの森学園	46,136	39,216
シャンティ国際ボランティア会	45,000	39,950
DPI 日本会議	44,000	38,250
環境＝文化NGO ナマケモノ倶楽部	43,000	38,250
公害地域再生センター	42,000	34,000
女性の安全と健康のための支援教育センター	42,000	61,200
ACE	40,000	37,400
アイキャン	40,000	33,150
いるかねっと	40,000	25,500
「みのお山麓保全ファンド」	39,000	41,650
霧多布湿原ナショナルトラスト	39,000	28,900
アジア・アフリカと共に歩む会	38,000	36,550
東京シューレ	37,000	39,100
シャプラニール＝市民による海外協力の会	34,000	33,150
ふよう土2100	34,000	29,750

メコン・ウォッチ	32,000	27,200
地域・教育魅力化プラットフォーム	32,000	27,200
病気の子ども支援ネット 遊びのボランティア	30,000	23,800
リソースセンターone	29,000	22,950
しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西	28,145	16,273
子どもの虐待防止センター	27,000	21,250
たんぽぽの家	26,000	0
芸術と遊び創造協会	25,000	20,400
ブリッジエーシアジャパン	24,000	23,800
レイブクライシスセンターTSUBOMI	24,000	13,600
トラ・ゾウ保護基金	23,000	19,550
リヴォルヴ学校教育研究所	23,000	20,400
持続可能な開発のための教育推進会議	20,000	17,000
楠の木学園	20,000	34,000
アレルギー支援ネットワーク	19,000	16,150
棚田 LOVER' s	19,000	16,150
エッジ	18,000	24,650
タンザニア・ポレポレクラブ	18,000	17,850
のんびりすみちゃんの家	18,000	18,700
国際ビフレンダーズ 東京自殺防止センター	18,000	15,300
おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ	17,000	15,300
e-MADO 病気のこどもの総合ケアネット	16,000	13,600
気候ネットワーク	15,000	9,350
多言語社会リソースかながわ	15,000	55,250
緑と水の連絡会議	15,000	12,750
インド福祉村協会	14,000	11,900
5years	13,000	11,050
サイエンス・アクセシビリティ・ネット	13,000	2,550
e-Education	12,000	10,200
Hands On Tokyo	12,000	10,200
チャンス・フォー・チルドレン	12,000	10,200
ゆるら	12,000	10,200
響愛学園	12,000	10,200
桜ライン 311	12,000	10,200
チャイルド・ファンド・ジャパン	11,000	29,750



知床自然大学院大学設立財団	11,000	17,850
東京 YMCA “liby (リビー)”	11,000	17,850
JHP・学校をつくる会	10,000	8,500
チャイルドラインあいち	10,000	17,000
尾道空き家再生プロジェクト	10,000	8,500
アジア協会アジア友の会	7,000	5,950
樹木・環境ネットワーク協会	7,000	7,650
グリーンケア&ピアサポート 福島れんげの会	6,000	10,200
ロボカップ日本委員会	6,000	5,100
ジェン (JEN)	5,000	51,000
ムラのミライ	5,000	5,950
発達わんぱく会	5,000	0
みらいの森	3,500	0
アイサーチ・ジャパン	3,000	2,550
日本ウミガメ協議会	3,000	2,550
21世紀協会	2,000	5,100
WE21 ジャパン	2,000	1,700
日本国際ボランティアセンター (JVC)	2,000	1,700
きょうとグリーンファンド	1,000	850
みやぎ身体障害者サポートクラブ	1,000	0
伊万里はちがめプラン	1,000	850
高木仁三郎市民科学基金	1,000	850
児童虐待防止協会	1,000	850
地雷廃絶日本キャンペーン	1,000	850
日本フィランソロピー協会	1,000	1,700
マギーズ東京	0	10,200
ワールドキッズコミュニティ	0	8,500
東京 YMCA	0	8,500
合計	29,048,060	22,430,593

(注) アース・カンパニーに対する助成金額が0 (ゼロ) 円となっているのは、同寄附が発生したのが、2019年2月と3月であったためである。

また、上記の寄附金額には、寄附文化を広げることを目的に実施する、オンライン寄付のキャンペーン「E-ファンドレイジング・チャレンジ」(2回)の寄附金額を含んでいる。

1 回目・・・698,000 円

期間：2018 年 5 月 22 日～2018 年 7 月 5 日

(参加団体は 2017 年度新規団体 5 団体)

2 回目・・・1,601,981 円

期間：2018 年 12 月 10 日～2019 年 1 月 15 日：寄付月間に合わせて実施。

(参加団体は 28 団体 (内新規団体 10 団体))

クレジットカードとジャパンネット銀行以外の決済手段による、Give One (ギブワン) 登録団体に対する寄附は、25 件、合計 3,176,733 円だった。

寄附者名	受入寄附金額
株式会社 クオカード 様 (6 件)	111,800
みずほ社会貢献ファンド 様	1,000,000
azbil みつばち倶楽部 様	900,000
ゴールドマン・サックス証券 様	858,823
個人 (11 件)	224,000
乾杯・ごちそう・ありがとう チャリティ in 神楽坂	82,110
株式会社 アロス 様	15,000
株式会社 アミナコレクション 様	24,370
株式会社 椿屋池田商店 様	1,740
株式会社 エス・シー・シー 様	31,000
愛フラワースタジオ 様	10,000
合 計	3,176,733

2018 年度は以下の助成先に合計 3,097,368 円を助成した。

(2016 年度に受け取ったご寄附のうち 400,000 円を、2018 年度に繰り越して助成したものを含んでいる。(※印助成先団体に 100,000 円ずつ助成))

助成先団体名	助成額
5years	730,000
アムダ (AMDA)	288,813
難民を助ける会	265,627
ジャパン・プラットフォーム	265,624
ピース ウィンズ・ジャパン	265,624

CAPセンター・JAPAN ※	185,000
芸術家と子どもたち ※	102,210
エイブル・アート・ジャパン ※	100,000
キッズドア ※	100,000
インフォメーションギャップバスター	85,000
バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター	85,000
フードバンク山梨	85,000
越谷らるご	85,000
子どもセンター「パオ」	85,000
児童虐待防止協会	85,000
女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ	85,000
長野サマライズ・センター	85,000
Learning for All	47,600
石西礁湖サンゴ礁基金	31,042
JUON(樹恩) NETWORK	22,194
エバーラスティング・ネイチャー	7,378
チャリティーサンタ	2,550
日本クリニックラウン協会	2,006
ムラのミライ	1,700
合計	3,097,368

## 2) 財団運営への寄附

当財団の賛助会費（運営費 100%）は、個人 44 件、570,000 円、法人 4 件、400,000 円の合計 970,000 円だった。

また、財団指定寄附（事業費 100%）は、個人 1 件、10,000 円、法人 1 件、2,706 円、合計 12,706 円だった。

## 3) 社員参加型／顧客参加型寄附推進システムの提供・運営

### <寄附付き年賀状>

寄附金付き年賀状の企画は株式会社プリプレス・センターと協働して、2014 年版年賀状（当財団 2013 年度）から実施している。年賀状に支援先を明記するために、年賀状の販売開始に先立ち、2014 年度に助成先に関する選考委員会を開催し本年賀状のデザインで採用される障がい者アートの活動（一般財団法人たんぽぽの家 エイブルアート・カンパニー）

を助成先として決定した。2018年度は、2018年版年賀状販売による寄附金（90,612円）をもとに、77,021円の助成を実施した。

受入寄附金額	90,612円
助成額	77,021円
公募	公募実施せず（継続助成）
審査会	2014年7月11日～17日（書面による持回り開催）
選考委員	秋葉武（立命館大学産業社会学部 教授） 伊藤隆（世界文化フォーラムアライアンス 日本幹事） 槇ひさ恵（特定非営利活動法人ニンジン 常務理事）
審査結果	一般財団法人たんぼの家 エイブルアート・カンパニー
助成期間	2018年4月～2019年3月

#### <魚沼の未来基金>

本基金は、塩沢信用組合と協働して、魚沼地域の未来を切り拓く人材や団体を支援し、地域の誰もがいきいきと暮らせるふるさと魚沼を、将来にわたって継承・発展させることを目的として設立した。

本基金は、信用組合が組合員に呼びかけて寄附を募り共に地域に貢献するという、金融機関が「社会貢献のプラットフォーム」を提供する日本初の取り組みである。

ご寄附は「はばたき奨学金」（返済不要の高校生向け奨学金制度）に活用され、新1年生一人当たり96,000円（入学準備金36,000円、月例奨学金60,000円（5,000円×12か月））、新2,3年生は60,000円（月齢奨学金60,000円（5,000円×12か月））を支給している。

2018年度は226件、7,089,811円の寄附を受け入れた。

また、「第三期はばたき奨学金」対象者として、魚沼地域のひとり親家庭の子女50名（新1年生13名・新2年生20名・3年生17名）の奨学生の選定を行った。

2018年度の奨学金支給は、第二期奨学生38名に対して月例奨学金、第三期奨学生のうち新1年生に入学準備金を支給した。

受入寄附金額	7,089,811円
総決定金額	3,468,000円（96,000円×13名、60,000円×37名）
助成額	第二期：2,175,000円 第三期：468,000円（新1年生に対する入学準備金のみ） 合計：2,643,000円

公募	2018年10月1日～12月14日
応募	51件
審査会	2019年1月31日
選考委員	寺尾仁（新潟大学工学部建設学科 准教授） 林茂男（南魚沼市長） 佐藤雅一（魚沼市長） 小野澤一成（塩沢信用組合 理事長）
審査結果	50人を奨学生として選定
助成期間	2019年3月1日～2020年3月31日

< ささえあい QUO カード（寄附つきプリペイドカード） >

ささえあい QUO カード（寄附つきプリペイドカード）の企画は株式会社クオカードと協働して、2015年から販売を実施している。寄附先団体は、昨年度から引き続き「特定非営利活動法人石西礁湖サンゴ礁基金」「認定特定非営利活動法人エバーラスティング・ネイチャー」「特定非営利活動法人日本クリクラウン協会」「特定非営利活動法人芸術家と子どもたち」「AED・健康スポーツ基金」「アート&ヘルス基金」「認定特定非営利活動法人 AMDA（アムダ）」である。

なお、ささえあい QUO カード（寄附つきプリペイドカード）の販売は2018年度をもって終了となった。

受入寄附金額と枚数	石西礁湖サンゴ礁基金：36,400円、910枚 エバーラスティング・ネイチャー：8,560円、214枚 日本クリクラウン協会：2,120円、53枚 芸術家と子どもたち：2,480円、62枚 AED・健康スポーツ基金：4,560円、114枚 アート&ヘルス基金：7,800円、195枚 AMDA（アムダ）：62,240円、1,556枚 総額：124,160円、総販売枚数：3,104枚
-----------	--

4) 寄附基金の運営による継続的な寄附の推進今期は下記の基金を運営した。

< 東北 3.11 基金 >

福島、宮城、岩手の子どもたちをめぐる課題を解決し、子どもたちが自らの力で未来を

切り開いていく活動を支援する基金である。認定特定非営利活動法人ジャパン・カインドネス協会の管理する寄附金つき飲料自動販売機の売り上げから、2018年度は、1,748,386円の寄附を受け入れ、2団体に対し合計800,000円を助成した。

受入寄附金額	1,748,386 円
助成額	800,000 円
公募	2018年4月2日～5月1日
審査会	2018年5月（メールによる持ち回り審査）
審査委員	秋葉武（立命館大学産業社会学部 教授） 伊藤隆（世界文化フォーラムアライアンス 日本幹事） 槇ひさ恵（特定非営利活動法人ニンジン 常務理事）
審査結果	以下の2団体を決定 特定非営利活動法人いわき放射能市民測定室 一般社団法人ヴォイス・オブ・フクシマ
助成期間	2018年7月1日～2019年6月30日

#### <未来につなぐふるさと基金>

同基金は、キャノンマーケティングジャパン株式会社が使用済みカートリッジの回収本数と PPC 用紙（コピー紙）の販売数に応じ同社が実施する寄附や、古本の回収等による一般からの寄附も受け付けている。同基金への2018年度寄附受け入れ件数は11件、総額は13,274,213円だった。

2017年度に採択された5団体については、2018年12月に継続審査を行い、継続助成（助成期間：2018年1月～2019年12月）を決定し、2,395,000円を助成した。また、2019年2月に新規助成団体の審査を行い、5団体を採択し（助成期間：2019年4月～2019年12月）、2,500,000円を助成した。

2018年度の助成先である10団体において、生物多様性の保全を促す46の市民参加型プログラムが実施され、1,086名の市民が参加した。また、キャノンマーケティングジャパン株式会社が助成先団体において実施する写真教室（機材と講師の無料提供）に協力し、合計10回実施した。加えて、助成先団体の組織運営力の向上を目的とした組織診断や広報ワークショップ等の、運営面での支援を行った。キャノンマーケティングジャパン株式会社が生物多様性の啓発を目的として開設した「未来につなぐふるさとプロジェクト」のサイトに掲載するためのコンテンツの収集に協力し、公益財団法人日本自然保護協会と協力して、生物多様性の専門的見地からのコメントを作成した。

2019年3月1日には、東京都品川区のキヤノンマーケティングジャパン株式会社本社で報告会を開催し、助成先の10団体が参加して情報交換や意見交換を行った。

受入寄附金額	13,274,213 円
助成額	4,895,000 円 (2019 年度分を2018年度に助成)
公募	2018年11月1日～2019年1月10日 (新規団体のみ)
審査会	2018年 12 月： 2019 年助成の継続審査 (メールによる持ち回り審査) 2019年 2月15日：2019年助成の審査
審査委員	古沢広祐 (国学院大学大学院経済学研究科 教授) 村上 千里 (公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会、環境委員会副委員長、ESD活動支援センター ユース事業担当コーディネーター) 後藤 なな (公益財団法人日本自然保護協会 自然保護部) 貫井 律 (キヤノンマーケティングジャパン株式会社 CSR本部長)
審査結果	継続助成 (5団体) 特定非営利活動法人営利活動法人霧多布湿原ナショナルトラスト 特定非営利活動法人小網代野外活動調整会議 富士山アウトドアミュージアム 海辺工房ひとで 特定非営利活動法人宮古島海の環境ネットワーク 新規助成 (5団体) 特定非営利活動法人 里山倶楽部 特定非営利活動法人 三段峡-太田川流域研究会 公益財団法人 高知県牧野記念財団 環境ネットワーク「虹」 貝殻浜生物調査隊
助成期間	継続 2019 年 1 月 1 日～2019 年 12 月 31 日 新規 2019 年 4 月 1 日～2019 年 12 月 31 日

#### <教育基金>

教育の課題解決に取り組む NPO や社会的企業を応援するための教育基金は、全ての子ども・青少年が持てる力を十全に発揮し、人生を切り拓く力を身に着けることをめざすもの

である。2014 年度に選考委員会で決定した助成先 NPO 法人 Teach For Japan のネクストティーチャープログラム（次世代のリーダーとなる資質をもった人材を選抜・育成し、正規の教員として学校現場へおくりだすプログラム）に対し、継続的に助成をしている。寄附募集の結果、今年度は 13 件 22,800 円の寄附を受け入れ、19,383 円を助成した。

受入寄附金額	22,800 円
助成額	19,383 円
公募	公募実施せず（2014 年度より継続助成）
審査結果	特定非営利活動法人 Teach For Japan
助成期間	2018 年 4 月～2019 年 3 月

#### <アート&ヘルス基金>

「アート&ヘルス基金」は、アートの力で病院や福祉施設、学校、コミュニティケアの場を豊かな空間とすることを目指すもので、人間が生きることを助けるアート活動を支える寄附の仕組みである。2018 年度は 9 件、42,800 円の寄附を受け入れた。2018 年度は助成は実施せず、全額を繰り越した。

#### <AED・地域あんしん基金>

キャノンマーケティングジャパン株式会社と共同で「AED・地域あんしん基金」を設立した。本基金はご寄附をもとに、多くの市民が利用する公共施設や福祉施設に AED を寄贈し、災害時などに避難所となることが想定される施設などに設置することを目的としている。運営管理はパブリックリソース財団が行い、キャノンマーケティングジャパン株式会社は募金活動の協力および AED の設置、講習インストラクターの派遣を行った。

本年度は、3 件合計 1,606,360 円の寄附を受け入れた。

審査委員会で応募 6 団体を審査し、2018 年度は 4 団体への寄贈を決定した。

受入寄附金額	1,606,360円
寄贈台数	4 台 ※前年度以前受け入れ寄附分も含む
公募	財団ホームページ上で随時受け付け
応募件数	6 団体
審査会	2018 年 7 月、11 月（メールによる持ち回り審査）



選考委員	浅野幸子（早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」 招聘研究員） 市瀬敬子（NPO法人世田谷福祉住環境コーディネーター研究会 理事長） 西尾元雄（キャノンマーケティングジャパン株式会社 総務・CSR本部 主席）※7月まで 早坂修一（キャノンマーケティングジャパン株式会社 CSR本部CSR推進部）※11月より 山崎富一（特定非営利活動法人笑顔せたがや 理事・事務局長）
AED寄贈先 選定結果	4 団体を決定。 特定非営利活動法人命と子育て応援隊FAD 社会福祉法人三央会 社会福祉法人共生の里 夢活動センター八幡 特定非営利活動法人もりのこえん

#### < AED・健康スポーツ基金 >

公益財団法人日本健康スポーツ連盟と共同で、「AED・健康スポーツ基金」を設立した。本基金はご寄附をもとに、地域スポーツに関わる多くの人がAEDを使えるよう、地域のスポーツチームにAEDを寄贈することを目的としている。運営管理はパブリックリソース財団が行い、日本健康スポーツ連盟は、募金活動、AED普及についての啓蒙活動、講習インストラクターの派遣と講習の実施を行う。本年度は、2 件合計 25,270 円の寄附を受け入れた。

なお、本基金は公益財団法人日本健康スポーツ連盟と協議の上、2018 年度をもって活動を終了し、指定寄付金残高 296,935 円に関しては同用途のAED・地域あんしん基金にて引き継ぐこととなった。

#### < ふくしま未来基金 >

「ふくしま未来基金」は福島県内の篤志家及び地域貢献を目指す企業からの寄附で創設された地域基金である。基金創設時に受け入れた大口寄附をもとに運営を行っており、2018 年度の受け入れ寄附は、10,500 円にとどまった。

2018 年度は、一般財団法人ふくしま未来研究会や一般社団法人ふくしま連携復興センターなど、複数の福島市内の中間支援組織や専門家と連携しながら、「未来づくり助成（1 年 300 万円+コンサルタント支援 50 万円相当、2 年間継続助成）」「まちづくり草の根助成（単年度支援 100 万円）」の二つの助成プログラムを実施した。福島市内を中心とする 15 団体（内 3 団体は 2018 年度からの継続）に総額 23,295,320 円を助成した。

同基金では、資金助成だけでなく、経営支援を行うことを重視している。全助成団体の

理事およびスタッフを対象に、NPO マネジメント講座（通信講座）を実施したほか、「未来づくり助成」の助成団体に対して、組織基盤強化のためのコンサルタント派遣による経営支援を実施した。「まちづくり草の根」の助成団体についても、受け入れ条件が合致する団体については、組織診断を実施した。

また、2018年度は、前年度に実施した公開研究会で提起された県内NPOの抱える問題点・課題に対する具体的対策を立案し、希望団体に対して、財務会計に関する事務局支援を開始した。引き続き2019年度には会計専門家派遣や労務管理研修も実施することを決定した。

受入寄附金額	10,500 円
助成額	23,295,320 円（総額） ※前年度以前受け入れ寄附分も含む
公募	2018年3月6日～4月4日
応募件数	52 団体
審査会	一次審査会：2018年5月10日 二次審査会：2018年5月27日
選考委員	永倉禮司（福島大学学長参与） 黒田かをり（般財団法人CSO ネットワーク 常務理事） 鷹野秀征（弊財団理事 復興庁上席政策調査官） 中鉢博之（NPO法人ビーンズふくしま 理事） 菅野日出男（一般財団法人ふくしま未来研究会） 紅邑晶子（オフィスBeni 代表）
選定結果	<未来づくり助成> 特定非営利活動法人いわき自立生活センター 一般社団法人えこえね南相馬研究機構 一般社団法人Bridge for Fukushima 特定非営利活動法人みんなのひろば 特定非営利活動法人Leaf <まちづくり草の根助成> 公益社団法人あい権利擁護支援ネット 特定非営利活動法人あさがお 特定非営利活動法人0073（おおなみ） 欽藍社 一般社団法人JAST（日本ソーシャルセラピストアカデミー） 特定非営利活動法人ソーシャルデザインワークス

	なみとも 福島県CAPグループ連絡会 ベルフォンテ ママチャンネルまつり実行委員会
助成期間	2018年6月1日～2019年5月31日

○ NPO マネジメント講座の実施状況

通信講座の実施期間	2018年7月18日～2018年9月12日
通信講座講師	岸本幸子、鶴尾雅隆、春野真徳、藤本毅郎、坂本文武、雨森孝悦、田口由紀絵
通信講座受講者数	18名

同基金では、上記の資金助成に加え、人材育成事業も実施している。

2018年度は、未来を志向した夢のあるプロジェクトを地域に立脚しながら構想し実現する有為な「人材」を育てる「ふくしま志高塾」と、福島県内におけるNPOや社会起業家の活動を支援する人材を育てる「コンサルタント養成講座」を実施した。

○ ふくしま志高塾の実施状況

実施期間	2018年7月～2019年2月
開催日	講義研修編：7月31日、8月1日 企画研修編：10月29日、30日 個別メンタリング：10月～2019年2月 プレゼンテーション大会：2019年2月5日
講師	佐藤勝三、播磨靖夫、田中勇一、久住剛
メンター	鷹野秀征、臼井清、山崎富一、槇ひさ恵
参加者数	4名

○ コンサルタント養成講座の実施状況

実施期間	2018年7月24日～2018年12月22日
開催日	通信講座：2018年7月24日～9月14日 集合研修：2018年9月29日、10月20日、10月27日、 11月3日、11月24日、12月1日、12月22日

場所	TKP東京駅八重洲カンファレンスセンター
講師	田口由紀絵（公益財団法人パブリックリソース財団 事務局長） 加留部孝行（NPO法人日本ファシリテーション協会 フェロー） 長浜洋二（株式会社 PubliCo 代表取締役CEO）
受講者数	11 名
組織診断実習先	3 団体

#### <あい基金>

すべての女性が自らの力で人生を選択できる社会を目指し、経済的自立など女性にまつわる課題解決に取り組む事業を支援する、女性のための基金「あい基金」を運営している。

同基金は1団体あたり50万円、原則2年継続、総額100万円の助成をおこなっている。2018年度は第一期助成団体については、終了報告書を受領し、2年間の助成を完了した。また、第二期助成団体については継続審査を行ったが、継続助成は行わないことを決定した。第三期目の助成事業について、審査会にて新規に1団体を選定し、総額500,000円を助成した。

2019年3月13日にあい基金フォーラム「地域の未来を創る女性たち～課題先進地 東北被災地が変わる～」を開催した。被災地で活動する女性リーダー4名が登壇し、現地の活動の難しさや苦勞をリアルに伝えるとともに、地域活性のために女性の活躍の重要性とそれを支援する仕組みが必要であるという問題提起がなされた。また、同フォーラムにて、「新しい参加型の寄付者プログラム”あい基金ギビング・サークル”の創設を宣言し、2019年度に本格始動することを発表した。

2018年度は41件合計1,169,168円の寄附を受け入れた。

受入寄附金額	1,169,168円
助成額	500,000円（総額） ※前年度以前受け入れ寄附分も含む
公募	2019年1月7日～1月31日
応募	11件
審査会	一次審査（書類審査）：2019年2月 二次審査会：2019年3月1日
選考委員	黒田かをり（一般財団法人CSOネットワーク 常務理事・事務局長） 酒井香世子（損保ジャパン日本興亜株式会社 人事部特命部長） 桜井陽子（特定非営利活動法人全国女性会館協議会 顧問）

審査結果	第三期助成決定先 特定非営利活動法人 S E T
助成期間	2019 年 1 月 1 日～2019 年 12 月 31 日

#### <純 子ども基金>

同基金は、経済的に困難な状況で育つ子どもの学び、発育、食、住まい等の確保に取り組む団体を対象とするオリジナル基金である。助成先団体の組織基盤強化に取り組むことを通じ、子どもたちが健やかに、心豊かに成長できる環境づくりを進めることを目的として設立された。同基金の助成金プログラムは、1 団体につき初年度 100 万円、2 年度目 150 万円、3 年度目 150 万円、総額 400 万円を支給するもので、継続助成の可否は 1 年毎に改めて審査を行って決定する。当財団がこれまで行ってきた組織診断、コンサルティング、社会的インパクト評価などのマネジメント支援の経験にもとづき、資金支援とメンタリング・サポートの両面から、継続的に団体を応援している。

2018 年度は、2017 年度に採択した 2 団体に対して継続審査を行い、2 団体が引き続き支援対象となり、総額 3,000,000 円を助成した。

受入寄附金額	3,500,000 円
助成額	3,000,000 円（総額）
応募	2 件
審査会	2018 年 4 月 25 日
選考委員	雨森孝悦（日本福祉大学 教授） 大森智恵子（特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター 理事） 中鉢博之（特定非営利活動法人ビーンズふくしま 理事）
審査結果	以下 2 団体を決定。 特定非営利活動法人寺子屋方丈舎 特定非営利活動法人ウィーズ
助成期間	2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日

#### <I.H.K 基金>

同基金は、将来の医療福祉分野での活躍を願って、東京都内の児童養護施設または里親宅で暮らしている児童（女子）が高校卒業後に進学する授業料を助成し、児童の社会的自立を支援することを目的に設立された。一人あたり総額 100 万円の返済不要の奨学金を支給している。また、認定特定非営利活動法人ブリッジフォースマイルと連携し、就学期間中、対象者に若い社会人ボランティアを派遣し、社会的自立に向けて、近い年齢層からの

相談しやすい環境を提供していく。

2018年度は1,160,000円の寄附を受け入れた。奨学金選考委員会にて、1名の奨学生を選定し、1年目の奨学金として500,000円を支給した。

受入寄附金額	1,160,000円
総決定金額	1,000,000円 (1年目500,000円、2年目500,000円)
助成額	500,000円
公募	2018年7月4日～7月31日
応募	1件(2017年度に補欠となった児童)
審査会	2018年8月(メールによる持ち回り審査)
選考委員	小園弥生(横浜市男女共同参画センター横浜南 管理事業課長) 山北洋二(あしなが育英会 顧問) 岸本幸子(公益財団法人パブリックリソース財団 代表理事)
審査結果	1人を奨学生として選定
助成期間	2019年3月29日～2021年3月31日

#### <ゆーじチャレンジ基金>

同基金は、将来の医療福祉分野での活躍を願って、静岡県内の児童養護施設または里親宅(ファミリーホーム含む)で暮らしている児童が高校卒業後に進学する授業料を助成し、児童の社会的自立を支援することを目的に設立された。一人当たり総額100万円の返済不要の奨学金を支給する。

2018年度は1,220,000円の寄附を受け入れた。奨学金選考委員会にて、1名の奨学生を選定し、1年目の奨学金として250,000円を支給した。

受入寄附金額	1,220,000円
総決定金額	1,000,000円 (1年目250,000円、2年目250,000円、3年目250,000円、4年目250,000円)
助成額	250,000円
公募	2018年7月4日～10月15日
応募	1件
審査会	2018年11月17日

選考委員	小野田全宏（静岡県ボランティア協会市民活動センター 理事長） 日詰一幸（静岡大学 人文社会科学部長） 岸本幸子（公益財団法人パブリックリソース財団 代表理事）
審査結果	1 人を奨学生として選定
助成期間	2019 年 3 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

<大和証券グループ 輝く未来へ こども応援基金>

同基金は、株式会社大和証券グループ本社の持続可能な社会の実現に向けて貢献する活動の一環として、子どもの環境改善や貧困の連鎖を防止することを目的に創設された基金である。同基金では、子どもの人生への意欲を育み将来の貧困リスクを低減する先駆的な事業をとりあげ、効果的で継続的なものとするための事業開発を支援し、子どもの貧困対策におけるイノベーションを推進している。

同基金の助成金プログラムは、1 団体につき初年度 300 万円、2 年度目 300 万円、3 年度目 300 万円、総額 900 万円を支給する。なお、継続支援には 1 年毎の審査が行われる。

2018 年度は 6 件、23,131,604 円の寄附を受け入れ、審査会にて新規採択 2 団体、継続支援 3 団体を選定した。

受入寄付金額	23,131,604 円
助成額	15,000,000 円
審査会	一次審査会：2018 年 12 月 3 日 二次審査会：2018 年 12 月 13 日
審査委員	萩原なつ子（立教大学社会学部・同大学院21世紀社会デザイン研究科教授、認定NPO法人日本NPOセンター 副代表理事） 赤石千衣子（特定非営利活動法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ 理事長） 岡本拓也（ソーシャルマネジメント合同会社 代表、特定非営利活動法人ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京 理事） 小河光治（公益財団法人あすのば 代表理事） 川那部留理子（株式会社大和証券グループ本社 経営企画部 SDGs推進室長）

審査結果	以下の 5 団体を決定 <新規採択団体> 認定特定非営利活動法人エデュケーションエークューブ 認定特定非営利活動法人D×P <継続支援団体> 認定特定非営利活動法人SOS子どもの村JAPAN 認定特定非営利活動法人PIECES 特定非営利活動法人Learning for All
助成期間	2019 年 1 月 1 日～2019 年 12 月 31 日

#### <ゴールドマン・サックス基金>

ゴールドマン・サックス証券株式会社（GS）の持田昌典社長のイニシアチブで創設された基金であり、子どもの貧困問題に取り組む団体を支援している。持田社長は米国の大学で学んで飛躍した自身の経験から、「教育を受けるチャンスがあることは重要だ」と基金の創設を行った。

同基金では、GiveOne 登録団体の中から、NPO 法人「Learning for All (LFA)」(東京都新宿区、李炯植代表理事) を選択し、同団体が展開する学習支援などのプログラムに、今後 3 年で計約 4 億円を助成する予定である。延べ約 750 人の子どもたちへの教育支援を目指している。

2018 年度は、56,866,666 円の寄附を受け入れ、LFA に対し 51,792,539 円を助成した。LFA は、助成金をもとに、東京都葛飾区で公民館、学校などを活用した支援拠点をもうけ、生活が苦しい家庭の小中学生に、スタッフが無償で勉強を教える学習支援を展開するほか、学校や家庭以外の安心できる「第三の居場所」づくりに取り組んだ。LFA の展開するプログラムは、「子どもたちが早期から切れ目なく支援を受けられるセーフティネットを日本に構築する」ことを目標としており、今後、葛飾区での活動をモデル化して全国に広げていくことを目指すものである。

受入寄付金額	56,866,666 円
助成額	51,792,539 円
受益者数	120名

#### <Women's Social Change Fund>

寄付者の受勲を記念して創設された寄付基金である。来年度以降、女性支援のエコシステムを開発するために活用される予定である。



受入寄付金額	1,144,000 円
助成額	なし

<佐渡水仙基金>

相続財産からの寄附 1 件が実行された。亡くなった母親が若き日に看護師として活躍していたことを偲び、出身地の医療系人材の育成を願っての寄附である。来年度以降、同基金は運営される予定である。

受入寄付金額	2,000,000 円
助成額	なし

<角方基金>

シニア層の寄付者が、これまでの人生で受けた縁に感謝し、未来世代に恩送りするとともに、寄附文化を広めることを希望し、寄附されたものである。来年度以降、寄附文化推進キャンペーン、教育関係の支援に活用される予定である。

受入寄付金額	10,000,000 円
--------	--------------

<株主優待活用プロジェクト>

任意団体「優活プロジェクト」と協働で取り組んだプロジェクトで、放棄されたり有効に使われなかった株主優待品を現物寄附として受け取り、社会貢献に取り組む民間非営利団体等に寄贈した。2018 年度は実験的段階の取り組みとして、2 社から株主優待品を現物で受け取り、18 団体に寄贈を実行し、株主優待品の活用システムの開発に取り組んだ。

受入寄付金額	744,383 円（現物寄附）
寄贈先団体数	18団体

<緊急災害支援基金>

MHD モエ ヘネシー ディアジオ株式会社より、災害が起こった際に会社として緊急に募金するための基金を立ち上げたいとの相談を受けた。Give One（ギブワン）の登録団体を助成の対象とすることで迅速な資金支援を行うことを提案し、基金の仕組みを協働で開発した。2018 年度は、緊急時に備えたプール金として、3,000,000 円の寄付を受け入れた。

受入寄付金額	3,000,000 円
助成額	なし

## (2) 社会貢献活動についての情報提供、相談事業

社会貢献活動を促進したいと考える企業を対象に、以下の情報提供や成果評価を行った。

### <azbil みつばち倶楽部>

Azbil みつばち倶楽部は、会員（アズビル株式会社の役職員の有志）が毎月 100 円を拠出して集めた寄附をもとに、会員が推薦する市民活動団体に対して資金支援をすることを目的としている。本年度は、アズビル株式会社と業務委託契約を結び、支援先の募集、受付、選定、連絡、報告書の取り寄せ、本プログラムへのアドバイス等を行った。

### <東日本大震災被災地視察のコーディネート>

クラブツーリズム株式会社と業務委託契約を結び、同社の社会貢献活動の実施支援を行った。本年度は同社の社員や「エコスタッフ」を対象に、東日本大震災被災地視察のコーディネートを行った。同社では本年度現地訪問、講演会、ボランティアなどを実施した。

## (3) 寄附を推進するための普及啓発活動等に関する事業

### 1) 個人や企業等からの寄附を喚起するための事業

遺言や相続に関する寄附やオリジナル基金の創設について説明する各種パンフレットの作成に取り組んだ。遺贈寄附推進のために全国レガシーギフト協会の「いぞうの窓口」として活動した。

### 2) 寄附を推進する仕組みやプロジェクトの企画及び実施に係る事業

日本証券アナリスト協会の行う、第 16 回 PB（プライベートバンカー）スクール（2019 年 2 月 16 日（土）開催）において、「海外プライベートバンクとフィランソロピー研究 ～ 経営者・資産家に関心の高い話題と課題中心に～」を企画し、「日本でのフィランソロピーの HOWTO - その定義、特長、具体的な進め方」のテーマで、専務理事の岸本幸子が講演を行った。

## (4) 社会的活動を行う団体等に対する助成事業

上記 (4) は、(1) の事業において受け入れた寄附を活用する事業である。いずれの事業においても、広く対象を募集し、社会的活動や各種の公益活動分野に関して知見のある有識者で構成された委員会による公平かつ厳正な審査を経て選定を行う。(4) の助成事業

については、(1)の事業で記載した。

(5) 社会的活動を行う団体等に対する表彰・顕彰事業

<「チャンピオン・オブ・チェンジ」日本大賞>

本賞は、アメリカ在住の日本出身女性、厚子・東光・フィッシュの提案により、創設された。フィッシュ・ファミリー財団と業務委託契約を結び、本賞の実施を担った。超高齢社会、大災害、子どもの貧困、地域社会の疲弊など様々な課題に対して、勇気をもって自ら行動を起こし、地道に活動を続け、地域社会の課題解決や新たなシステムの構築に取り組んできた女性たちを表彰すると同時に、その活動を広く知らせ、受賞者の志、知恵やアイデアをより多くの女性と共有し、後につなぎ、より良い社会を築くための社会貢献活動の意義と喜びを広める事を目指している。

公募	2018年6月7日～7月2日
応募	143件
選考会	一次選考会：2018年9月10日 最終選考会：2018年11月12日
選考委員	石川治江（特定非営利活動法人ケア・センターやわらぎ代表理事） 井上英之（一般社団法人INNO-Lab International 共同代表） 龍治玲奈（日本マイクロソフト株式会社 法務政策企画統括本部 渉外・社会貢献課長） 厚子・東光・フィッシュ（フィッシュ・ファミリー財団 共同創設者・理事） 山田泰久（NPO法人CANPANセンター 代表理事） ダニエル・ペレル（ティファニー・アンド・カンパニー・ジャパン・インク 社長）
選考結果	<大賞> 正井禮子（認定特定非営利活動法人 女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ 代表理事） <入賞者> 阿部真紀 （認定特定非営利活動法人 エンパ ワメントかながわ 理事長） 熊仁美・竹内弓乃 （特定非営利活動法人ADDS 共同代表（理事））

	杉山絢子 (一般社団法人 CAN net(キャンネット) 代表理事) 橘ジュン (特定非営利活動法人 BOND プロジェクト 代表) 田村亜紀子 (特定非営利活動法人 チャイルド・ケモ・ハウス 副理事長) 正井禮子 (認定特定非営利活動法人 女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ 代表理事) 村島弘子 (特定非営利活動法人 移動支援 Rera 代表理事) 吉田恵美子 (特定非営利活動法人 ザ・ピープル いわきおてんとSUN企業組合/ふくしまオーガニックコットンプロジェクト)
表彰式	2018 年 11 月 12 日
表彰内容	<大賞> 正賞 (ティファニー社製カップ) と副賞 100 万円 <ファイナリスト> ティファニー社製の記念品

(6) 社会的活動を行う団体等に対する研修事業

NPO 法人の経営力・信頼性の向上を支援することを目的に、以下の研修事業を実施した。

1) NPO のマネジメントコンサルティングの実施

<社会福祉法人 日本国際社会事業団>

日本国際社会事業団が Panasonic NPO サポート ファンドの支援を受け、弊財団にマネジメントコンサルティングを業務委託した。弊財団では、中期計画策定のためのコンサルティングを 2017 年度に引き続き実施した。

契約期間：2018 年 1 月 1 日～2018 年 12 月 31 日

コンサルティングの内容：中期計画策定支援

<特定非営利活動法人あそびっこネットワーク>

あそびっこネットワークが独立行政法人福祉医療機構の支援を受け、弊財団に事業の有効性を評価するためのコンサルティングを業務委託した。

契約期間：2018年7月末日～2019年3月末日

コンサルティングの内容：屋外ひろばに併設した相談ひろば事業の事業評価

<特定非営利活動法人あきた結いネット>

あきた結いネットが Panasonic NPO サポート ファンドの支援を受け、弊財団にマネジメントコンサルティングを業務委託した。弊財団では、組織診断のコンサルティングを開始した。

契約期間：2019年1月21日～2019年5月31日

コンサルティングの内容：組織診断

<公益財団法人ケア・インターナショナル ジャパン>

ケア・インターナショナル ジャパンが Panasonic NPO サポート ファンドの支援を受け、弊財団にマネジメントコンサルティングを業務委託した。弊財団では、組織診断のコンサルティングを開始した。

契約期間：2019年1月17日～2019年5月31日

コンサルティングの内容：組織診断

## 2) NPO マネジメントに関する講座の運営および講師派遣

<講師派遣>

外部セミナー等への講師派遣を8回行った。

## 3) ソーシャルビジネスに関する講座企画、運営、起業支援

2つの社会的な法人（特定非営利活動法人自治創造コンソーシアム、特定非営利活動法人ニンジン）の事務局運営支援を行った。

## (7) 調査研究、情報発信、政策提言に関する事業

<Panasonic NPO サポート ファンド 2016 年に助成事業を終了した団体を対象とした成果評価>

パナソニック株式会社が企業市民活動の一環として実施する「Panasonic NPO サポート ファンド」に関し、成果評価を行った。

評価対象は、2016 年に同ファンドによる組織基盤強化事業を終了した団体（対象団体：11 団体）である。本事業による資金提供及び非資金的取組みが、助成の受け手における組織基盤の強化、活動の充実による社会課題の解決の促進に与えた影響を検証した。また、組織基盤強化の手法として、組織診断を実施したことによる効果、および第三者によるコンサルティングの効果をはかった。

助成先団体の応募用紙・報告書類の分析、診断シートを活用した事前・事後の変化分析、助成先団体へのアンケート調査を行った。弊財団では、同社に対し報告書を提出した。

<Panasonic NPO サポート ファンドの社会的インパクト評価>

同ファンドの組織基盤強化助成により生まれた社会的インパクトを評価するために、2018 年度は、特定非営利活動法人 CAP センター・JAPAN を対象としたインパクト評価を行った。

<パナソニック株式会社 100 周年フォーラムにおけるセミナーの企画・実施>

Social Value から、日本で最初となる認証を得た SROI レポートの内容を広く報告するために、「企業市民活動の効果をどう測るか」～NPO の組織基盤強化助成の社会的インパクト測定の試み～と題した SROI レポート報告会を実施した。

2018 年 11 月 2 日（金）午後 12 時 30 分～13 時 30 分

場所：東京国際フォーラム

主催：パナソニック株式会社、弊財団

協力：助成財団センター、社会的インパクト評価イニシアチブ

参加者：約 100 名

以上

**貸借対照表**  
2019年3月31日現在

公益財団法人パブリックリソース財団 第7期

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	1,772,443	495,035	1,277,408
現金	103,047	210,701	△ 107,654
普通預金 三菱東京UFJ	862,446	180,840	681,606
普通預金 ジャパンネット銀行	749,669	0	749,669
普通預金 八千代銀行	57,102	76,124	△ 19,022
当座預金郵便振替口座	179	27,370	△ 27,191
未払費用	119,988	3,468,766	△ 3,348,778
前払費用	433,360	632,420	△ 199,060
流動資産合計	2,325,791	4,596,221	△ 2,270,430
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産	3,000,000	3,000,000	0
基本財産合計	3,000,000	3,000,000	0
(2) 特定資産			
特定資産	270,224,312	296,348,181	△ 26,123,869
特定資産合計	270,224,312	296,348,181	△ 26,123,869
(3) その他固定資産			
敷金	320,000	320,000	0
その他固定資産合計	320,000	320,000	0
固定資産合計	273,544,312	299,668,181	△ 26,123,869
資産合計	275,870,103	304,264,402	△ 28,394,299
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
短期借入金	0	2,300,000	△ 2,300,000
未払費用	2,864,013	5,148,794	△ 2,284,781
預り金	719,192	837,041	△ 117,849
流動負債合計	3,583,205	8,285,835	△ 4,702,630
負債合計	3,583,205	8,285,835	△ 4,702,630
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 指定正味財産			
指定寄付金	271,843,772	295,772,335	△ 23,928,563
受取寄付物品	162,900	0	162,900
指定正味財産合計	272,006,672	295,772,335	△ 23,765,663
(うち基本財産への充当額)	( 3,000,000 )	( 3,000,000 )	( 0 )
(うち特定資産への充当額)	( 269,006,672 )	( 292,772,335 )	( △ 23,765,663 )
2. 一般正味財産	280,226	206,232	73,994
正味財産合計	272,286,898	295,978,567	△ 23,691,669
負債及び正味財産合計	275,870,103	304,264,402	△ 28,394,299

正味財産増減計算書  
2018年 4月 1日から2019年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1). 経常収益			
基本財産運用益	[ 298 ]	[ 298 ]	[ 0 ]
基本財産受取利息	298	298	0
特定資産運用益	[ 6,334 ]	[ 6,248 ]	[ 86 ]
特定資産受取利息	6,334	6,248	86
受賛取会費	[ 970,000 ]	[ 760,000 ]	[ 210,000 ]
助業員受取会費	970,000	760,000	210,000
事業収入	[ 12,086,095 ]	[ 18,420,674 ]	[ △ 6,334,579 ]
事業収入	12,086,095	18,420,674	△ 6,334,579
寄付金収益	[ 183,869,735 ]	[ 124,848,111 ]	[ 59,021,624 ]
指定寄付金振替	183,869,735	124,848,111	59,021,624
受取寄付物振替	581,483	0	581,483
雑収益	[ 664 ]	[ 24,034 ]	[ △ 23,370 ]
受取利息	61	41	20
雑収益	603	23,993	△ 23,390
経常収益計	196,933,126	144,059,365	52,873,761
(2). 経常費用			
事業費	[ 192,314,867 ]	[ 147,120,224 ]	[ 45,194,643 ]
役員報酬	4,608,000	3,222,400	1,385,600
臨時役員料	13,436,714	16,875,399	△ 3,438,685
法定雇福	6,386,068	3,687,327	2,698,741
研究会費	3,084,471	3,048,069	36,402
出張費	1,573,054	1,736,405	△ 163,351
出張費	332,648	393,373	△ 60,725
交通費	5,503,424	5,231,670	271,754
通搬費	769,528	648,370	121,158
支物品寄付金	1,597,422	1,665,983	△ 68,561
諸委託品謝託費	129,894,938	73,951,117	55,943,821
消耗品	1,577,336	1,402,920	174,416
印刷水道代	1,684,099	2,881,834	△ 1,197,735
地り保支租諸広修寄雑	14,091,314	25,088,161	△ 10,996,847
刷道代	391,055	359,932	31,123
製造本熱	1,425,622	969,414	456,208
家事	321,848	317,785	4,063
手数料	1,762,560	1,762,560	0
公課	1,005,488	1,121,547	△ 116,059
伝費	0	8,380	△ 8,380
売却損費	1,664,758	1,479,634	185,124
管	594,650	883,100	△ 288,450
役員報酬	12,000	12,000	0
臨時雇福	485,240	322,840	162,400
法定雇福	103,680	50,004	53,676
支物品寄雑	3,450	0	3,450
租諸広修寄雑	5,500	0	5,500
管	[ 4,673,298 ]	[ 4,172,417 ]	[ 500,881 ]
役員報酬	1,152,000	805,600	346,400
臨時雇福	485,688	447,081	38,607
法定雇福	576,076	559,277	16,799
支物品寄雑	261,813	170,706	91,107



科 目	当年度	前年度	増減
福 利 厚 生 費	26,208	0	26,208
会 議 費	247,280	193,936	53,344
研 究 費	62,848	0	62,848
出 張 費	126,554	114,120	12,434
旅 通 費	883	16,888	△ 16,005
消 費 信 運 通 搬 費	98,175	116,995	△ 18,820
印 耗 品 費	132,784	165,623	△ 32,839
水 刷 製 本 費	27,946	35,119	△ 7,173
地 道 光 熱 費	56,797	56,080	717
リ 代 一 家 賃 料	311,040	311,040	0
支 払 手 数 料	150,305	180,838	△ 30,533
弁 護 士 税 理 士 報 酬	107,781	183,014	△ 75,233
租 税 公 課	367,200	367,200	0
諸 会 費	1,700	2,700	△ 1,000
広 告 宣 伝 費	438,600	435,400	3,200
修 繕 費	5,980	0	5,980
雑 費	24,840	0	24,840
	10,800	10,800	0
経常費計	196,988,165	151,292,641	45,695,524
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 55,039	△ 7,233,276	7,178,237
評価損益計	0	0	0
当期経常増減額	△ 55,039	△ 7,233,276	7,178,237
2. 経常外増減の部			
(1). 経常外収益			
過 年 度 助 成 金 戻 り	[ 129,033 ]	[ 0 ]	[ 129,033 ]
経常外収益計	129,033	0	129,033
(2). 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	129,033	0	129,033
当期一般正味財産増減額	73,994	△ 7,233,276	7,307,270
一般正味財産期首残高	206,232	7,439,508	△ 7,233,276
一般正味財産期末残高	280,226	206,232	73,994
II 指定正味財産増減の部			
指 定 寄 付 金	[ 160,104,072 ]	[ 133,374,897 ]	[ 26,729,175 ]
指 定 寄 付 金	159,359,689	133,374,897	25,984,792
受 取 寄 付 物 品	744,383	0	744,383
一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額	[ △ 183,869,735 ]	[ △ 124,848,111 ]	[ △ 59,021,624 ]
一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額	△ 183,869,735	△ 124,848,111	△ 59,021,624
当期指定財産増減額	△ 23,765,683	8,526,786	△ 32,292,469
指定正味財産期首残高	295,772,335	287,245,549	8,526,786
指定正味財産期末残高	272,006,672	295,772,335	△ 23,765,663
III 正味財産期末残高	272,286,898	295,978,567	△ 23,691,669

※株主優待活用プロジェクトの開始に伴い、当年度、以下の科目名の追加と変更を行っている。

経常収益において、寄付金収益「受取寄付金振替」を同「指定寄付金振替」に変更、また同「受取寄付物品振替」を追加

経常費用において、事業費「寄付物品売却損」を追加

指定寄付金において、「受取寄付物品」を追加

## 財務諸表に関する注記

### 1. 重要な会計方針

消費税の会計処理：消費税の会計処理は税込方式によっている。

### 2. 基本財産の増減額及びその残高

基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
基本金	3,000,000	0	0	3,000,000
合計	3,000,000	0	0	3,000,000

### 3. 基本財産の財源の内訳

基本財産の財源の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	当期末残高	うち指定正味財産 からの充当額	うち一般正味財産 からの充当額	うち負債に 対応する額
基本財産				
基本金	3,000,000	3,000,000	0	0
合計	3,000,000	3,000,000	0	0

### 4. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
寄附基金				
ギブワン寄附金（オンライン）	4,355,630	28,257,417	27,375,550	5,237,497
ギブワン寄附金（オフライン）	405,471	3,081,434	3,486,905	0
未来につなぐふるさと基金	13,884,922	12,199,044	12,135,327	13,948,639
東北 3.11 基金	981,120	1,695,935	1,009,806	1,667,249
アート&ヘルス基金	175,214	41,518	0	216,732
ふくしま未来基金①	40,888,054	0	30,891,127	9,996,927
ふくしま未来基金②	116,130,440	10,185	12,172,045	103,968,580
ふくしま未来基金③	36,537,500	0	0	36,537,500
あい基金	1,500,000	1,119,227	1,419,227	1,200,000
AED 地域あんしん基金	1,589,953	1,594,270	1,834,537	1,349,686
AED 健康スポーツ基金	275,455	21,480	0	296,935
魚沼の未来基金	6,296,763	7,089,811	3,641,526	9,745,048

純 子ども基金	0	3,400,000	3,400,000	0
グッドジョブ基金	2,050,519	20,000	1,626	2,068,893
ゆーじチャレンジ基金	1,940,000	1,176,000	426,000	2,690,000
I.H.K.基金	120,000	1,116,000	636,000	600,000
高山基金	53,040,000	0	0	53,040,000
WSCF基金	0	1,144,000	0	1,144,000
角方基金	0	9,500,000	0	9,500,000
佐渡水仙基金	0	1,900,000	0	1,900,000
緊急災害支援基金	0	2,850,000	0	2,850,000
大和証券グループ子ども応援基金	650,000	22,026,399	18,206,173	4,470,226
ゴールドマンサックス基金①	2,203,340	0	2,203,340	0
ゴールドマンサックス基金②	0	55,851,842	55,851,842	0
教育基金	0	19,383	19,383	0
エイブルアート年賀状寄附金	0	87,894	87,894	0
株主優待活用プロジェクト(物品寄贈)	0	744,383	581,483	162,900
その他指定寄附金	0	10,000	10,000	0
財団運営管理基金	13,323,800	5,147,850	10,838,150	7,633,500
合 計	296,348,181	160,104,072	186,227,941	270,224,312

注：受け入れる指定寄附金は、寄附者の指定に基づき、別に定めのある基金を除いて寄附金額の20%を上限に、当財団の運営管理費に充当するため財団運営管理基金に受け入れている。

## 5. 特定資産の財源の内訳

特定資産の財源の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	当期末残高	うち指定正味財産 からの充当額	うち一般正味財産 からの充当額	うち負債に 対応する額
特定資産				
寄附基金	270,224,312	269,006,672	0	1,217,640
合 計	270,224,312	269,006,672	0	1,217,640

## 6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	金額
経常収益への振替額	
指定寄附金の使用による振替額	183,869,735
合計	183,869,735

## 附属明細書

### 1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記「2. 基本財産の増減額及びその残高」及び「4. 特定資産の増減額及びその残高」において記載しているため記載を省略している。

**財産目録**  
2019年 3月31日現在

公益財団法人パブリックリソース財団 第7期

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
<b>(流動資産)</b>				
現金 預金	現金 預金	手元保管	運転資金として使用	103,047
		普通預金 (以下2件)		
		三菱東京UFJ銀行新富町支店	運転資金として使用	862,446
		ジャパンネット銀行すずめ支店	運転資金として使用	749,669
		きらぼし銀行八丁堀支店	運転資金として使用	57,102
未収金	未収金	振替口座		
		ゆうちょ銀行〇一九支店	運転資金として使用	179
		アズビル(株)からの未収額	業務受託に係る未収分	119,988
前払費用		職員通勤定期(3名)、中央厚生事業協同組合(ライオンズマンション鉄砲洲)他に対する前払額	事業経費および運営管理費に係る前払分	433,360
<b>流動資産合計</b>				<b>2,325,791</b>
<b>(固定資産)</b>				
<b>基本財産</b>				
	基本金(指定)	定期預金 三菱東京UFJ銀行新富町支店	指定寄付金として受け入れた資金であり、公益目的保有財産として管理	3,000,000
<b>特定資産</b>				
	特定資産	普通預金(以下20件すべて)		270,224,312
	GiveOne(オンライン)	ジャパンネット銀行すずめ支店	指定寄付金として受け入れた資金であり、GiveOne他の各寄付基金の事業の財源として使用	287,268
	JNBCMJ未来につなぐふるさと基金	ジャパンネット銀行すずめ支店		13,948,639
	東日本3.11基金	ジャパンネット銀行すずめ支店		1,667,249
	アート&ヘルス基金	ジャパンネット銀行すずめ支店		216,732
	ふくしま未来基金①	ジャパンネット銀行すずめ支店		1,496,927
	ふくしま未来基金②	ジャパンネット銀行はやぶさ支店		103,968,580
	ふくしま未来基金③	ジャパンネット銀行はやぶさ支店		4,662,500
	ふくしま未来基金③東邦銀	東邦銀行本店営業部		31,875,000
	あい基金	ジャパンネット銀行すずめ支店		1,200,000
	AED地域あんしん基金	ジャパンネット銀行すずめ支店		1,646,621
	魚沼の未来基金	塩沢信用組合本店		9,745,048
	グッドジョブ基金	ジャパンネット銀行はやぶさ支店		2,068,893
	ゆーじチャレンジ基金	ジャパンネット銀行はやぶさ支店		2,690,000
	I.H.K.基金	ジャパンネット銀行はやぶさ支店		600,000
	WSCF基金	ジャパンネット銀行はやぶさ支店		1,144,000
	角方基金	ジャパンネット銀行はやぶさ支店		9,500,000
	佐渡水仙基金	ジャパンネット銀行はやぶさ支店		1,900,000
	大和証券グループ子ども応援基金	ジャパンネット銀行はやぶさ支店		4,470,226
	緊急災害支援基金	ジャパンネット銀行はやぶさ支店		2,850,000
	高山基金	ジャパンネット銀行ヒジメ初営業部支店		53,040,000
	ふくしま未来基金①(定期)	定期預金(以下1件) 八千代銀行八丁堀支店		8,500,000
	財団運営管理基金	普通預金 三菱東京UFJ銀行新富町支店	指定寄付金として受け入れた資金であり、財団の運営管理の財源として使用	7,633,500
	GiveOne未収金	寄付718件のカード決済分	指定寄付金として受け入れ予定の資金であり、GiveOne事業の財源として使用	4,950,229
	株主優待寄付物品	委託先(㈱スクーナ(東京都大田区山王)の倉庫に保管)	株主優待活用プロジェクトにおける寄贈物品として使用	162,900
<b>その他固定資産</b>				
	敷金	中央厚生事業協同組合(ライオンズマンション鉄砲洲)	事務所賃借の敷金として使用	320,000
<b>固定資産合計</b>				<b>273,544,312</b>
<b>資産合計</b>				<b>275,870,103</b>

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動負債)				
	未払費用	(一社)ふくしま連携復興センター、日本年金機構、(公財)日本自然保護協会他に対する未払額	事業経費および運営管理費に係る未払分	2,864,013
	預り金	報酬源泉税、財団職員7名からの預り額	報酬源泉税、財団職員7名に係る税金および社会保険料の預り分	719,192
	給与源泉税			96,010
	報酬源泉税			50,121
	健康保険料			170,610
	厚生年金			278,160
	雇用保険料			54,791
	個人住民税			69,500
流動負債合計				3,583,205
負債合計				3,583,205
正味財産				272,286,898

注：受け入れる指定寄附金は、寄附者の指定に基づき、別に定めのある基金を除いて寄附金額の20%を上限に、当財団の運営管理費に充当するため財団運営管理基金に受け入れている。

# 監査報告書

公益財団法人 パブリックリソース財団  
代表理事(理事長) 久住 剛 様

2019年5月22日

公益財団法人 パブリックリソース財団

監事 跡田 直澄

監事 富岡 順一

私たち監事は、2018年4月1日から2019年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次の通り報告いたします。

## 1 監査の方法及びその内容

理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決議書類を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

## 2 監査意見

### (1) 事業報告

- ①事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ②理事の職務の執行に関する不正な行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産および損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上